

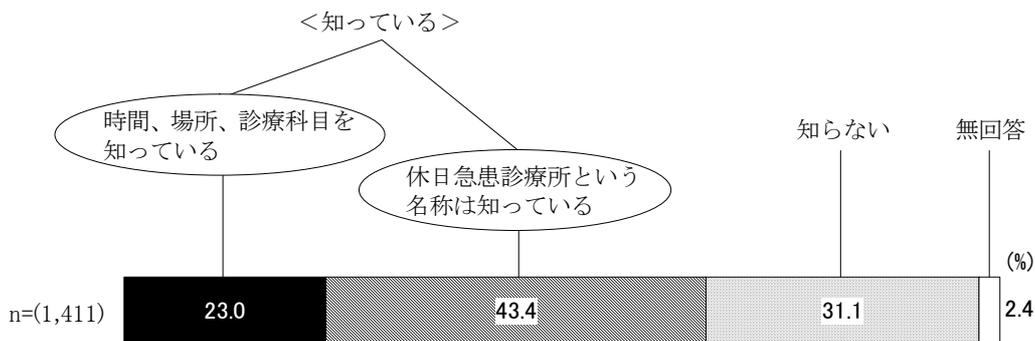
6 休日急患診療所について

6-1 休日急患診療所の認知状況

◎ <知っている>が66.4%

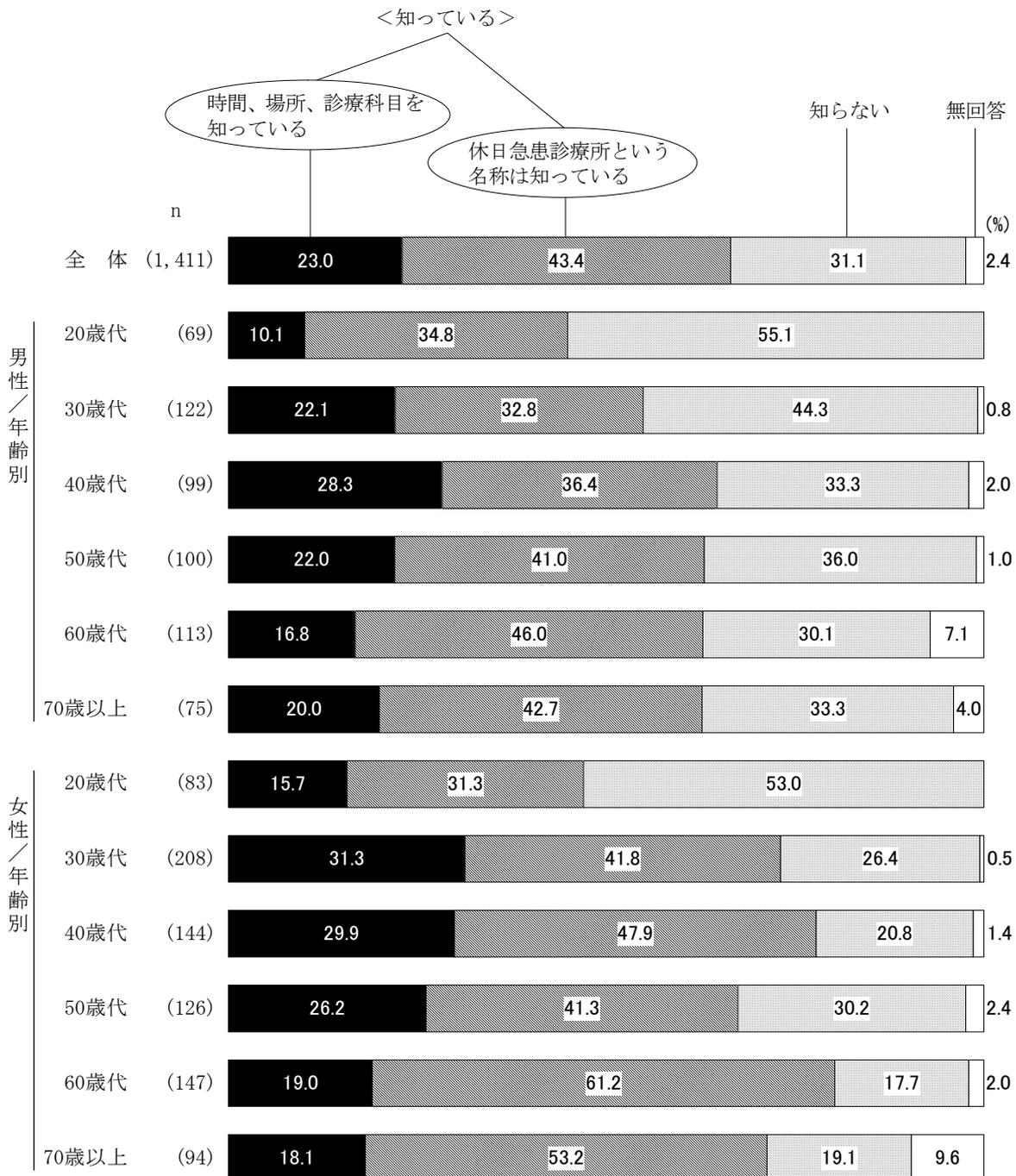
問15 あなたは、お住まいの区の休日急患診療所を知っていますか。(〇は1つ)

図表6-1 休日急患診療所の認知状況



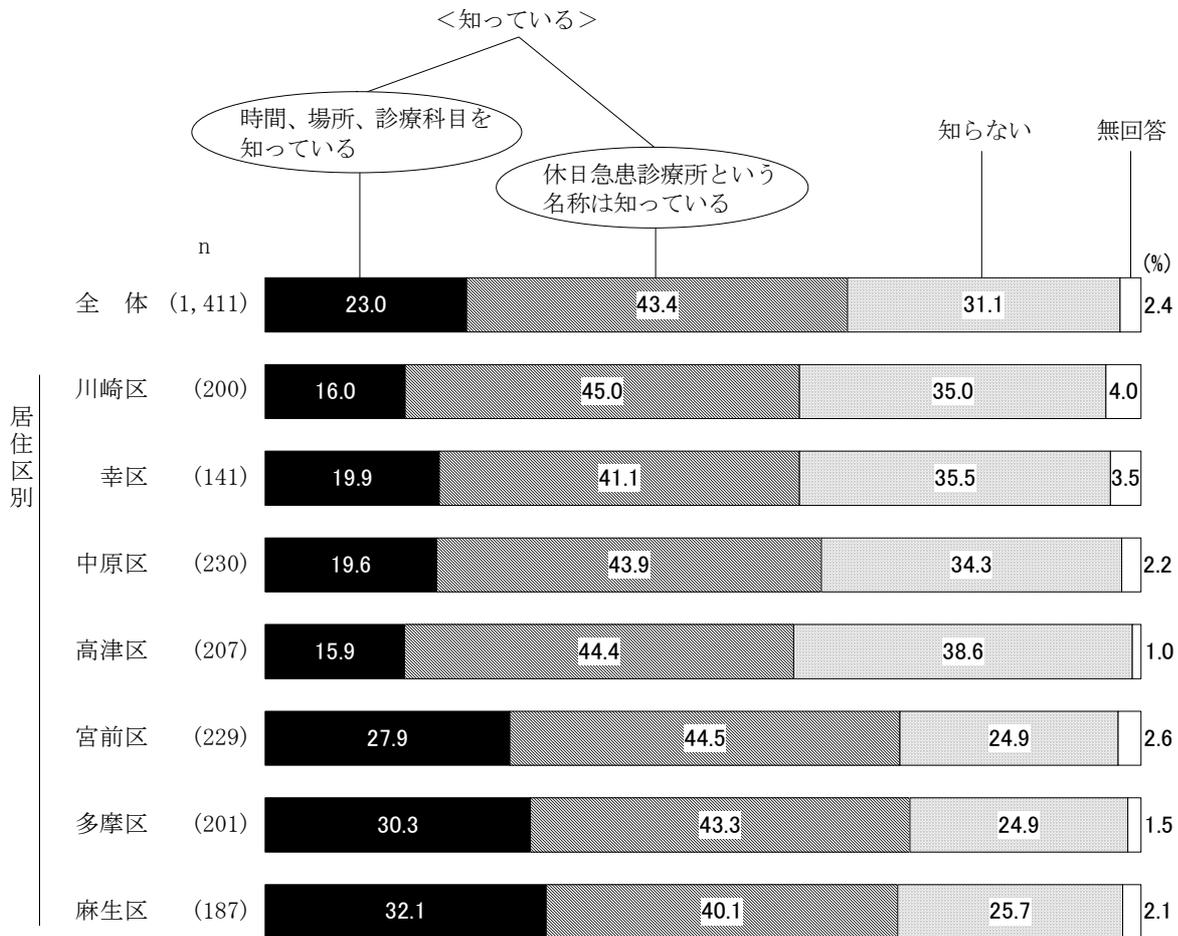
休日急患診療所の「時間、場所、診療科目を知っている」(23.0%)と「休日急患診療所という名称は知っている」(43.4%)をあわせた<知っている>は66.4%となっている。一方、「知らない」は31.1%である。(図表6-1)

図表6-2 休日急患診療所の認知状況(性/年齢別)



性/年齢別では、「時間、場所、診療科目を知っている」と「休日急患診療所という名称は知っている」をあわせた<知っている>は、女性の割合が高い傾向にあり、女性の60歳代が約8割で最も多くなっている。一方、「知らない」は、男女ともに20歳代が5割台半ばで多くなっている。(図表6-2)

図表6-3 休日急患診療所の認知状況(居住区別)



居住区別では、「時間、場所、診療科目を知っている」と「休日急患診療所という名称は知っている」をあわせた<知っている>は、宮前区、多摩区、麻生区で7割台と多い。一方、「知らない」は、高津区が3割台後半で最も多く、川崎区、幸区、中原区が3割台半ばとなっている。(図表6-3)

6-2 休日急患診療所の利用経験

◎ 「利用したことがある」が31.4%

(問15で「1. 時間、場所、診療科目を知っている」または「2. 休日急患診療所という名称は知っている」と答えた方にうかがいます。)

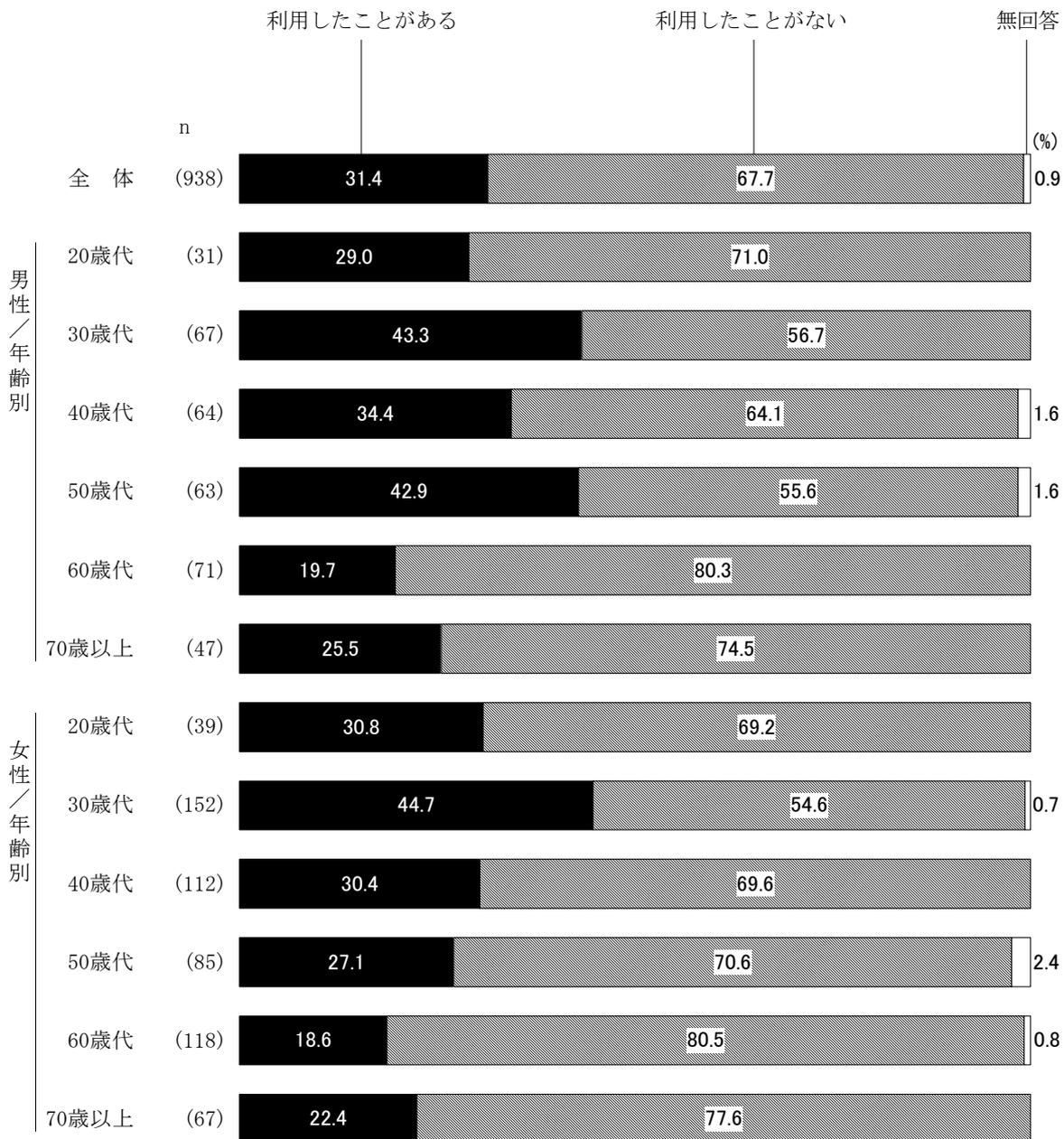
問15- (1) あなた、またはあなたの同居のご家族が、ここ3年間のうちに、休日急患診療所を利用したことがありますか。(○は1つ)

図表6-4 休日急患診療所の利用経験



休日急患診療所を「利用したことがある」人は31.4%、「利用したことがない」人は67.7%となっている。(図表6-4)

図表6-5 休日急患診療所の利用経験(性/年齢別)



性/年齢別では、「利用したことがある」は、男性の30歳代と50歳代、女性の30歳代が4割台前半で多くなっている。一方、「利用したことがない」は、男女ともに60歳代が約8割で最も多く、女性の70歳以上が7割台後半となっている。(図表6-5)

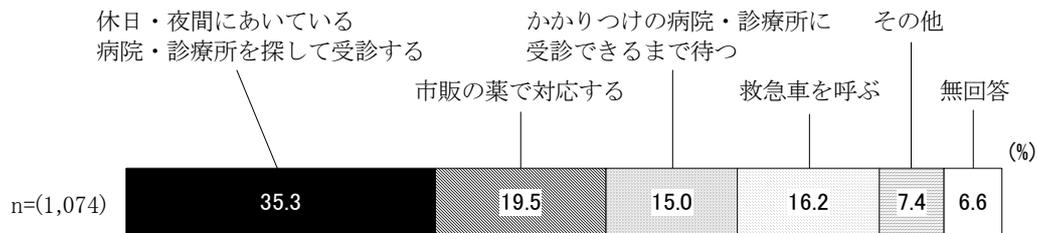
6-3 休日・夜間に診療が必要になったときの対処方法

◎ 「休日・夜間にあいている病院・診療所を探して受診する」が35.3%

(問15で「3. 知らない」または問15-(1)で「2. 利用したことがない」と答えた方にうかがいます。)

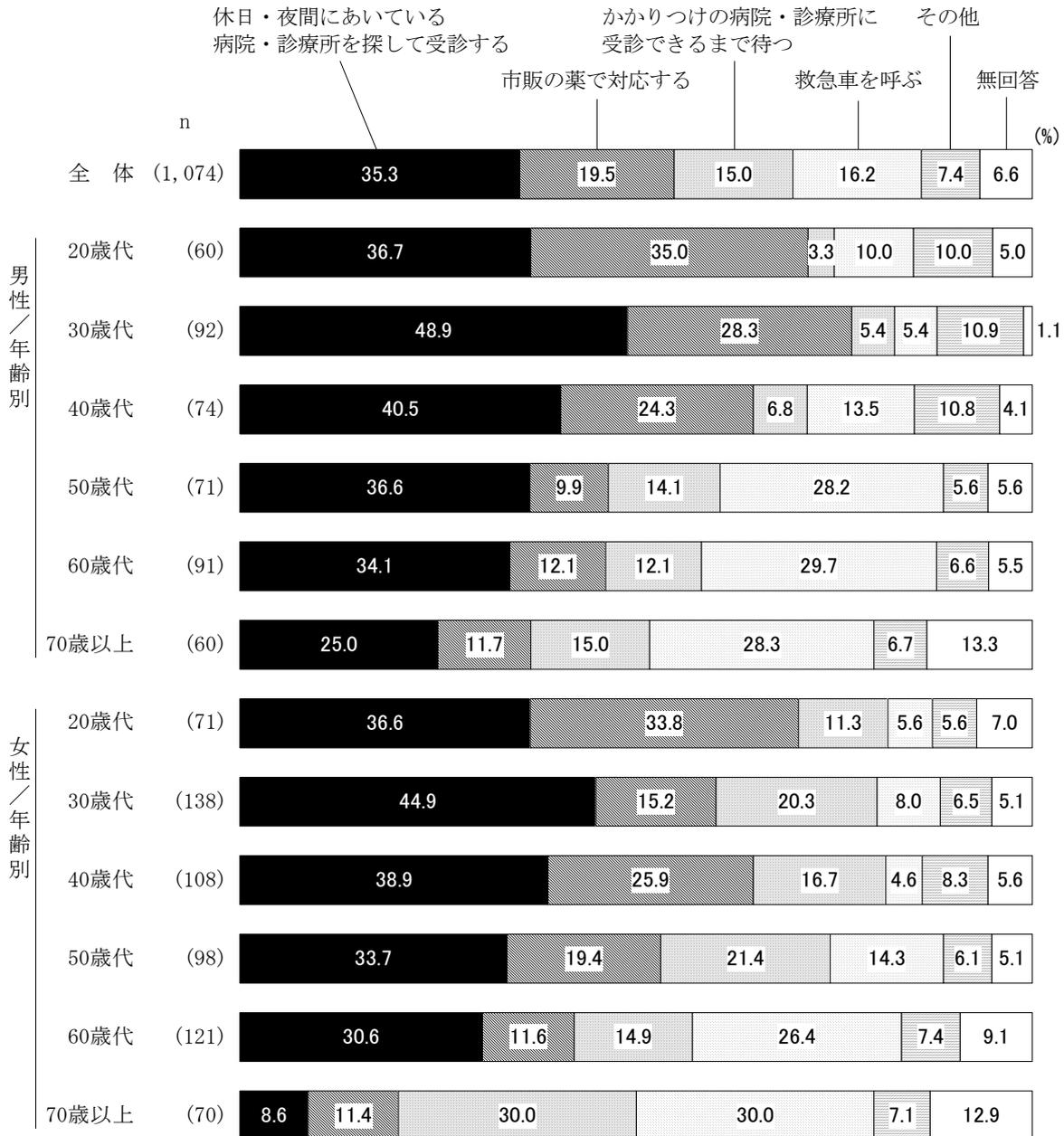
問15-(2) 休日や夜間の診療が必要になったときは主にどうしていますか。(○は1つ)

図表6-6 休日・夜間に診療が必要になったときの対処方法



休日・夜間に診療が必要になったときの対処方法は、「休日・夜間にあいている病院・診療所を探して受診する」(35.3%)が最も多くなっている。以下「市販の薬で対応する」(19.5%)、「救急車を呼ぶ」(16.2%)、「かかりつけの病院・診療所に受診できるまで待つ」(15.0%)と続いている。(図表6-6)

図表6-7 休日・夜間に診療が必要になったときの対処方法(性/年齢別)



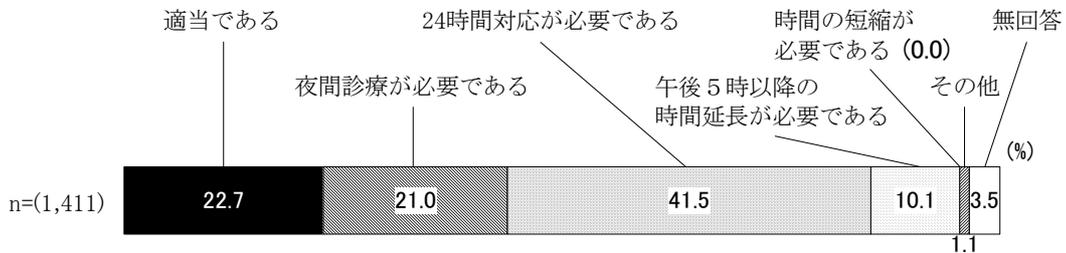
性/年齢別では、「休日・夜間にあいている病院・診療所を探して受診する」は、男女ともに30歳代が最も多くなっている。「市販の薬で対応する」は、男女ともに20歳代が3割台半ばとなっている。「救急車を呼ぶ」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっている。(図表6-7)

6-4 休日急患診療所の診療時間について

◎ 「24時間対応が必要である」が41.5%

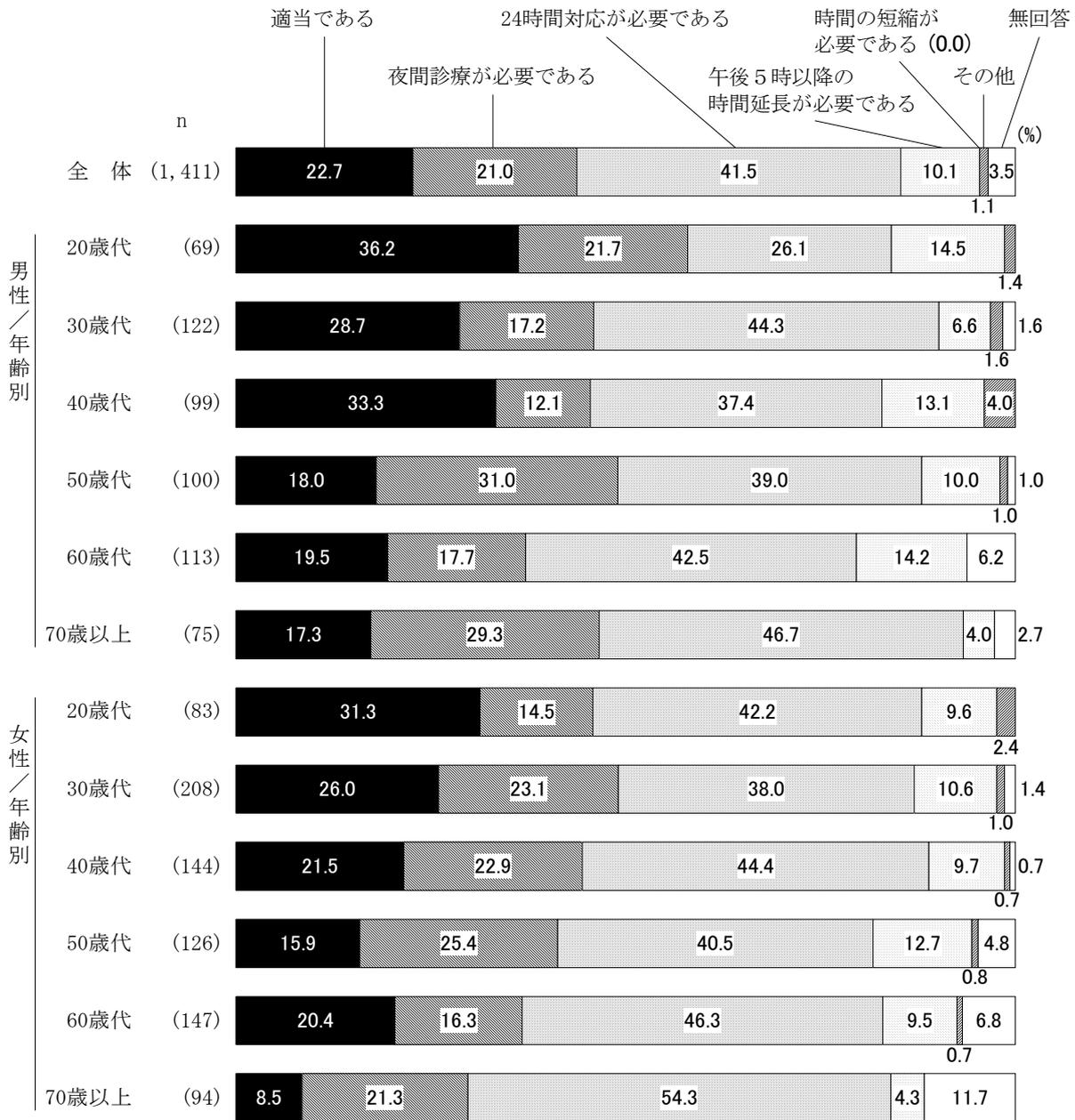
問16 あなたは、休日急患診療所の診療時間についてどう思いますか。(○は1つ)

図表6-8 休日急患診療所の診療時間について



休日急患診療所の診療時間は、「24時間対応が必要である」(41.5%)が最も多く、「夜間診療が必要である」(21.0%)、「午後5時以降の時間延長が必要である」(10.1%)と続いている。一方、「適当である」が22.7%である。(図表6-8)

図表6-9 休日急患診療所の診療時間について(性/年齢別)



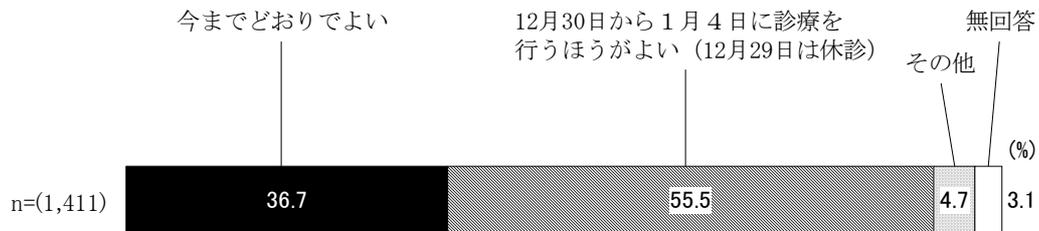
性/年齢別では、「24時間対応が必要である」は、女性の70歳以上が5割台前半で最も多く、男性の70歳以上も4割台後半と多くなっている。一方、「適当である」は、男性の20歳代と40歳代、女性の20歳代が3割台が多くなっている。(図表6-9)

6-5 休日急患診療所の年末・年始診療期間について

◎ 「12月30日から1月4日に診療を行うほうがよい（12月29日は休診）」が55.5%

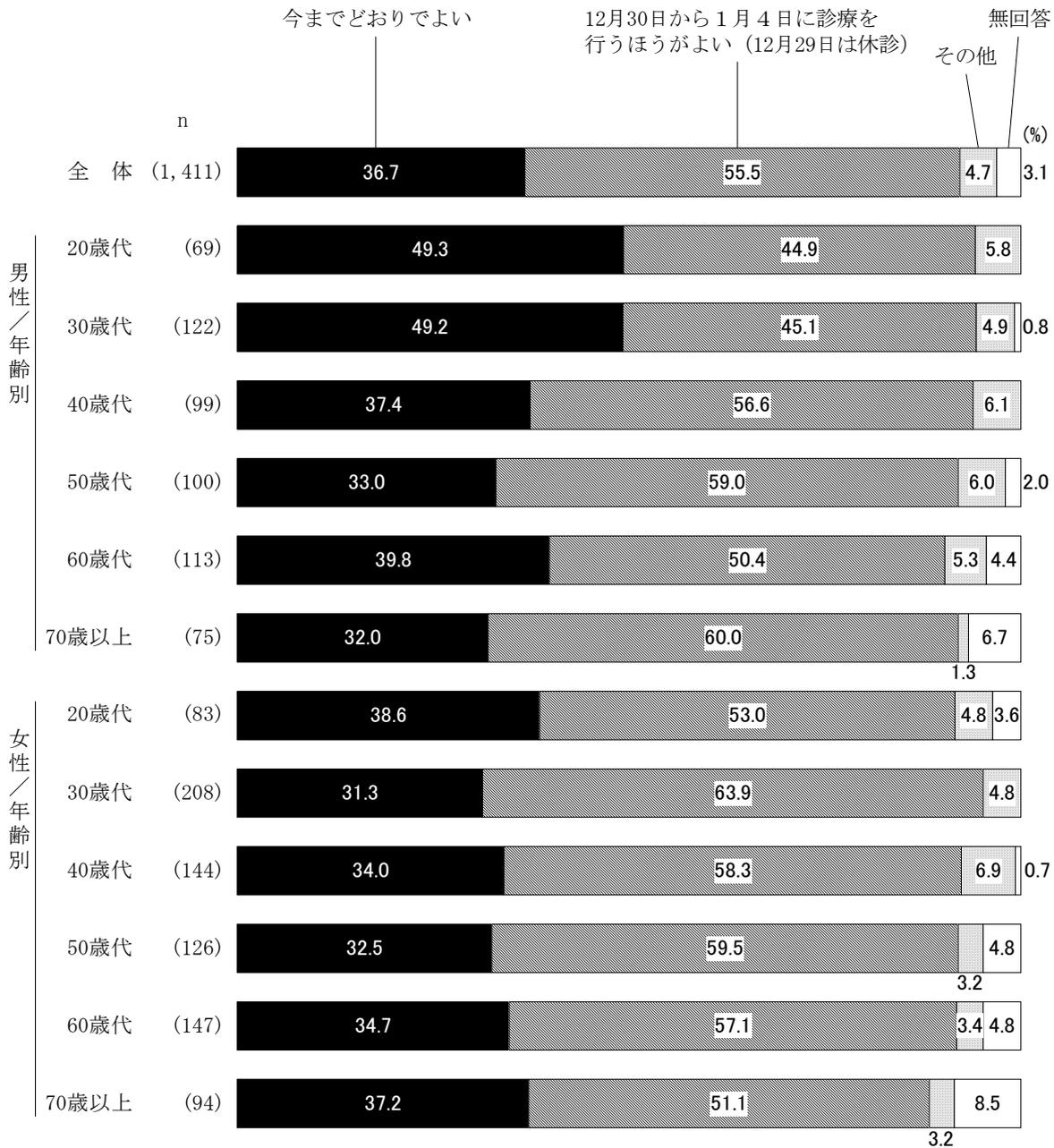
問17 現在、休日急患診療所では、年末年始は12月29日から1月3日まで診療を行っていますが、市内の医療機関では、12月29日に診療を行い1月4日に休診しているところが増えています。これを踏まえて、休日急患診療所の年末・年始の診療期間をどうしたらよいと思いますか。（○は1つ）

図表6-10 休日急患診療所の年末・年始診療期間について



休日急患診療所の年末・年始診療期間は、「今までどおりでよい」が36.7%である。一方、「12月30日から1月4日に診療を行うほうがよい（12月29日は休診）」が55.5%となっている。（図表6-10）

図表6-11 休日急患診療所の年末・年始診療期間について(性/年齢別)



性/年齢別では、「今までどおりでよい」は、男性の20歳代と30歳代が約5割で多くなっている。一方、「12月30日から1月4日に診療を行うほうがよい(12月29日は休診)」は、女性の30歳代が6割台前半で多くなっている。(図表6-11)

6-6 休日急患診療所の診療科目について

◎ 「他の診療科を増やしたほうがよい」が64.9%

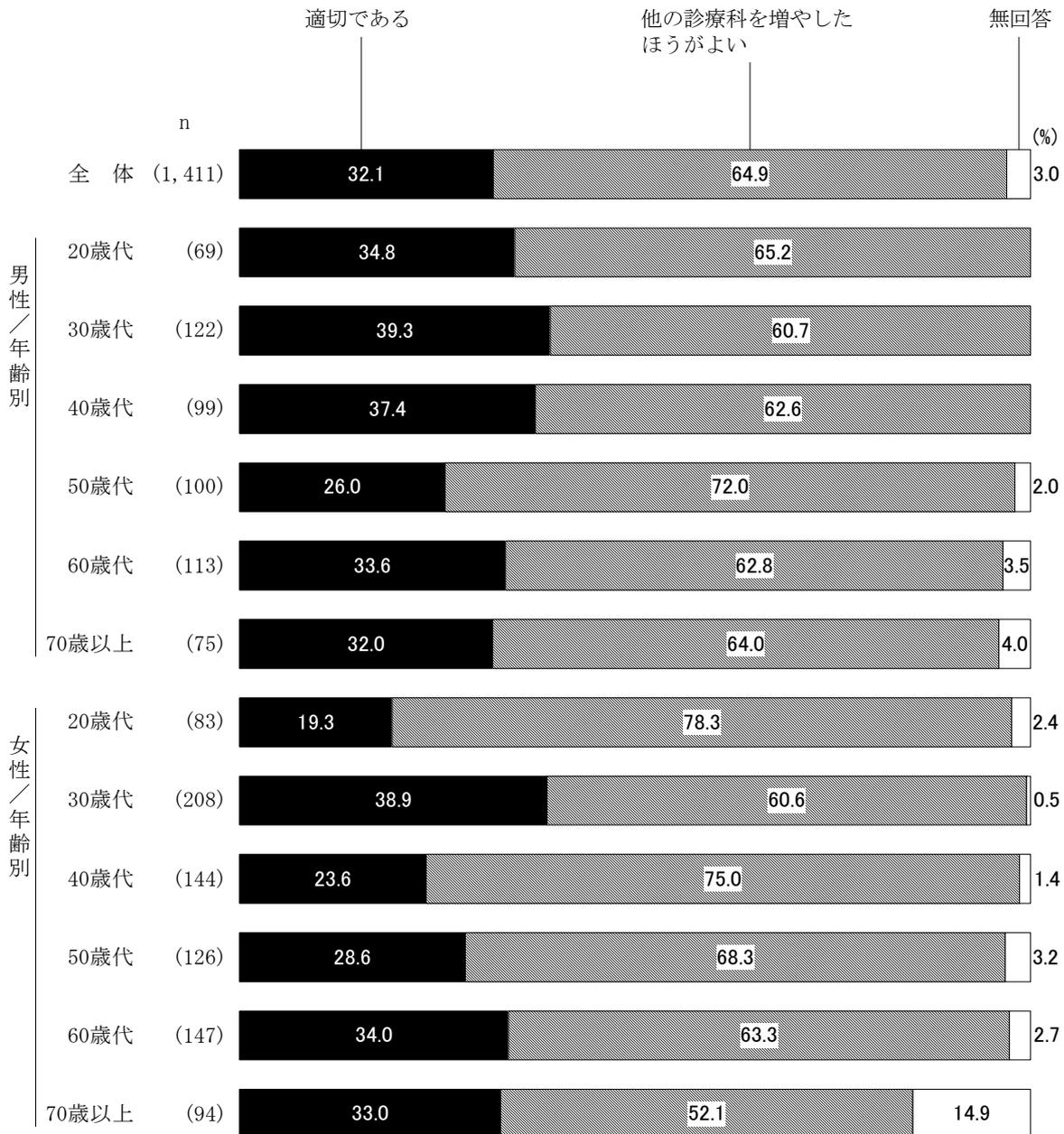
問18 休日急患診療所の診療科目は内科と小児科の2つで適切だと思いますか。(○は1つ)

図表6-12 休日急患診療所の診療科目について



休日急患診療所の診療科目は、「適切である」が32.1%である。一方、「他の診療科を増やしたほうがよい」が64.9%となっている。(図表6-12)

図表6-13 休日急患診療所の診療科目について(性/年齢別)



性/年齢別では、「適切である」は、男女ともに30歳代が約4割と多くなっている。一方、「他の診療科を増やしたほうがよい」は、男性の50歳代、女性の20歳代と40歳代が7割台と多くなっている。(図表6-13)

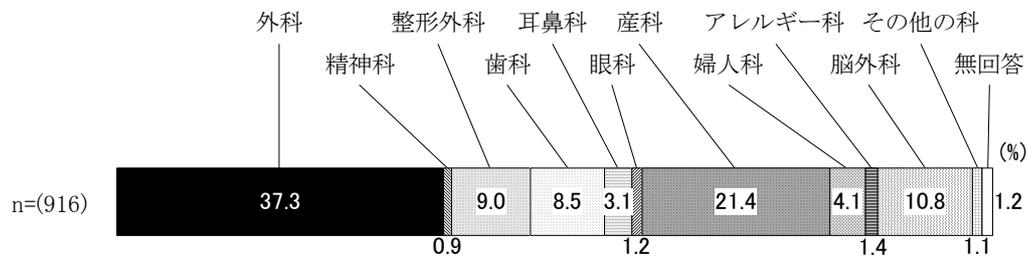
6-7 休日急患診療所に増やしてほしい診療科目

◎ 「外科」が37.3%

(問18で「2. 他の診療科を増やしたほうがよい」と答えた方にかがいます。)

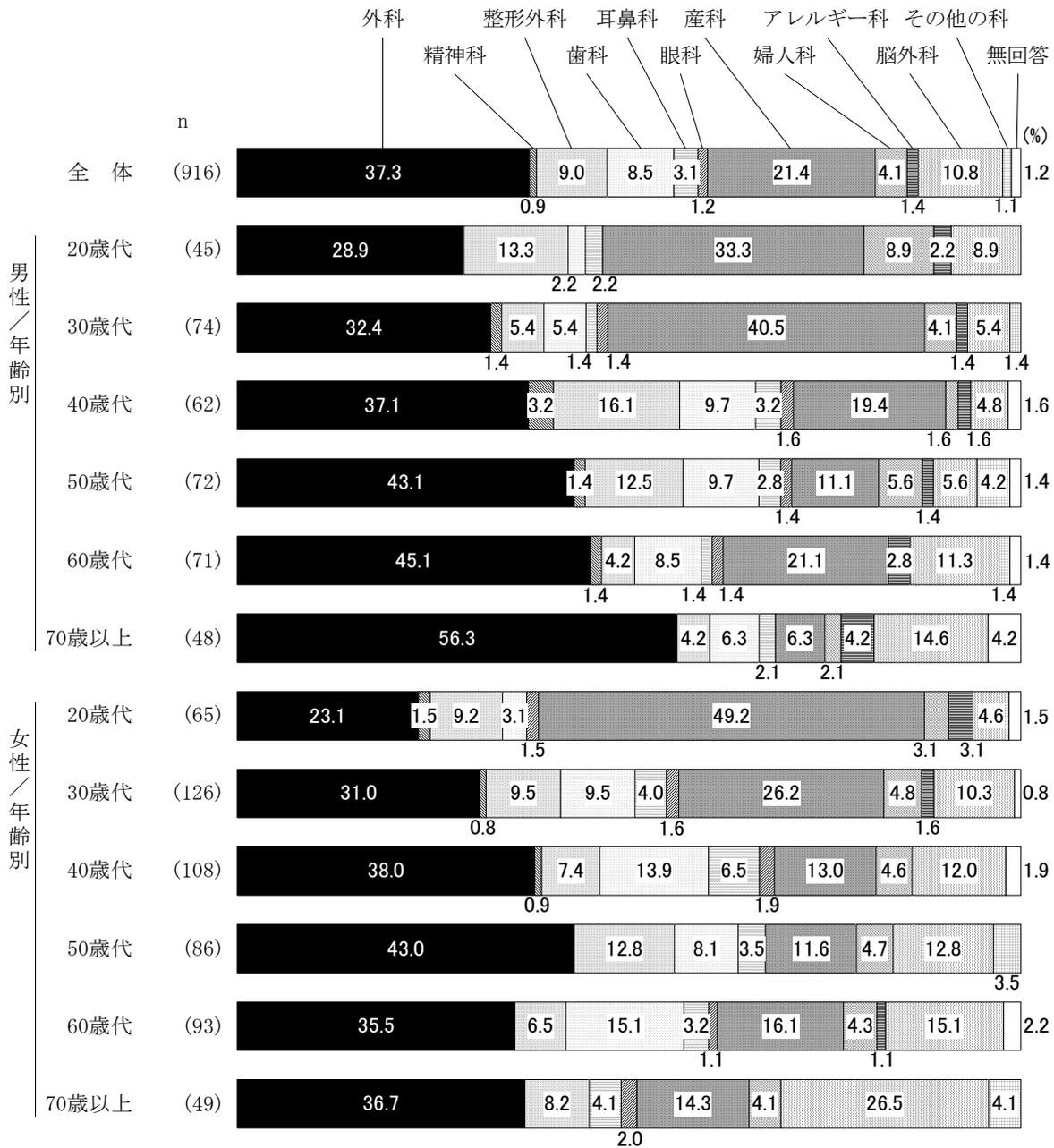
問18-(1) その診療科目は、主に次のどれですか。(〇は1つ)

図表6-14 休日急患診療所に増やしてほしい診療科目



休日急患診療所に増やしてほしい診療科目は、「外科」(37.3%)が最も多くなっている。以下「産科」(21.4%)、「脳外科」(10.8%)と続いている。(図表6-14)

図表6-15 休日急患診療所に増やしてほしい診療科目(性/年齢別)



性/年齢別では、「外科」は、男性では年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、特に70歳以上が5割台後半となっている。女性では、50歳代が4割台前半で多くなっている。「産科」は、男女ともに20歳代と30歳代が多く、特に女性の20歳代が約5割、男性の30歳代が約4割となっている。「脳外科」は、女性の70歳以上が2割台後半で多くなっている。(図表6-15)

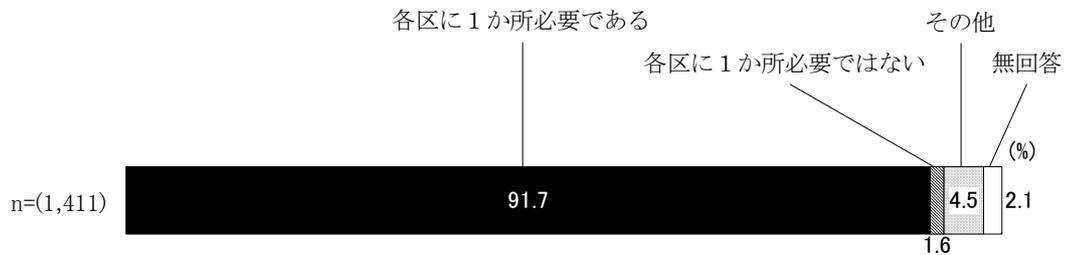
6-8 休日急患診療所の数について

◎ 「各区に1か所必要である」が91.7%

問19 現在、休日急患診療所は、各区に1か所あります。各区に1か所必要だと思いますか。

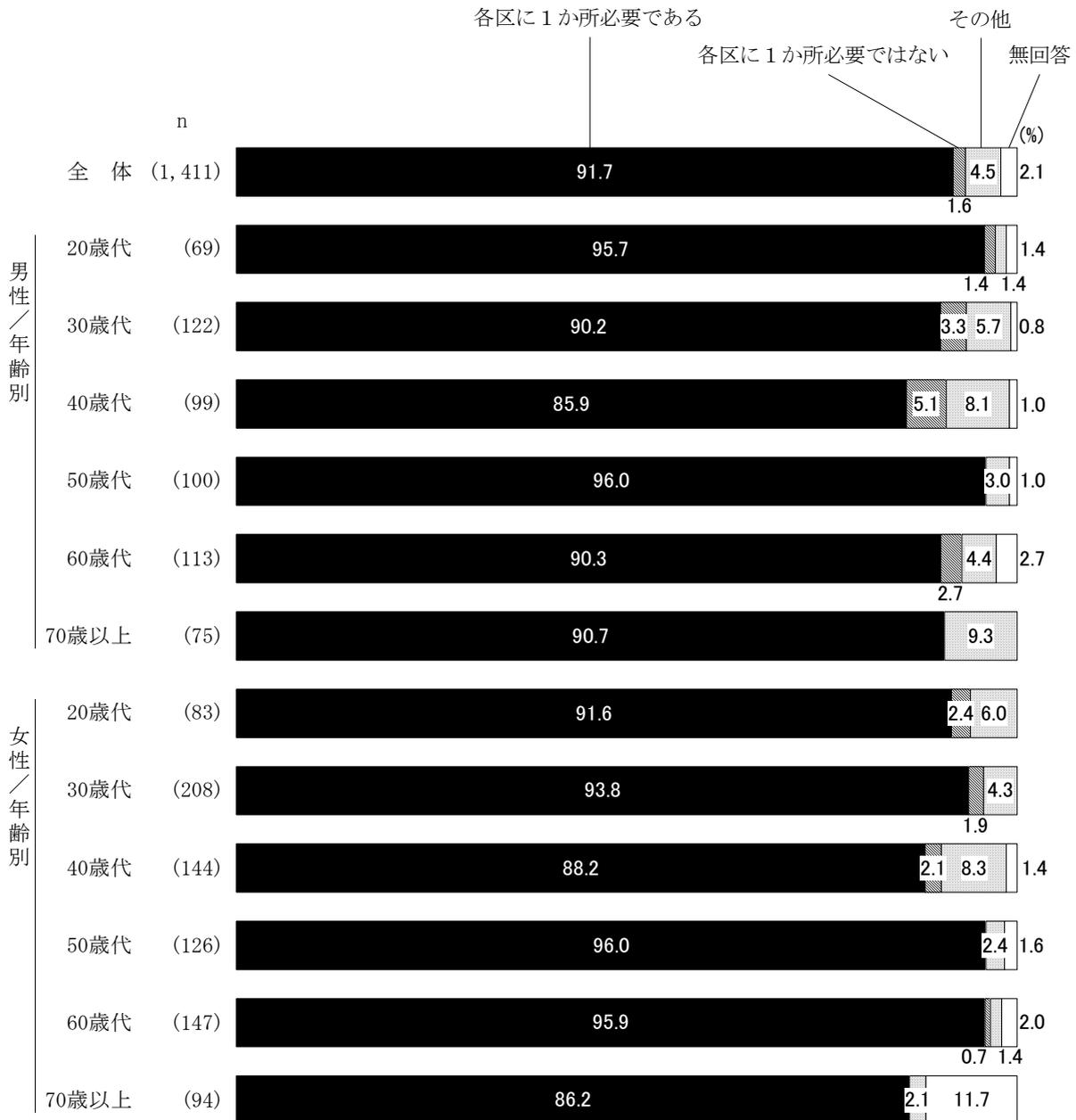
(○は1つ)

図表6-16 休日急患診療所の数について



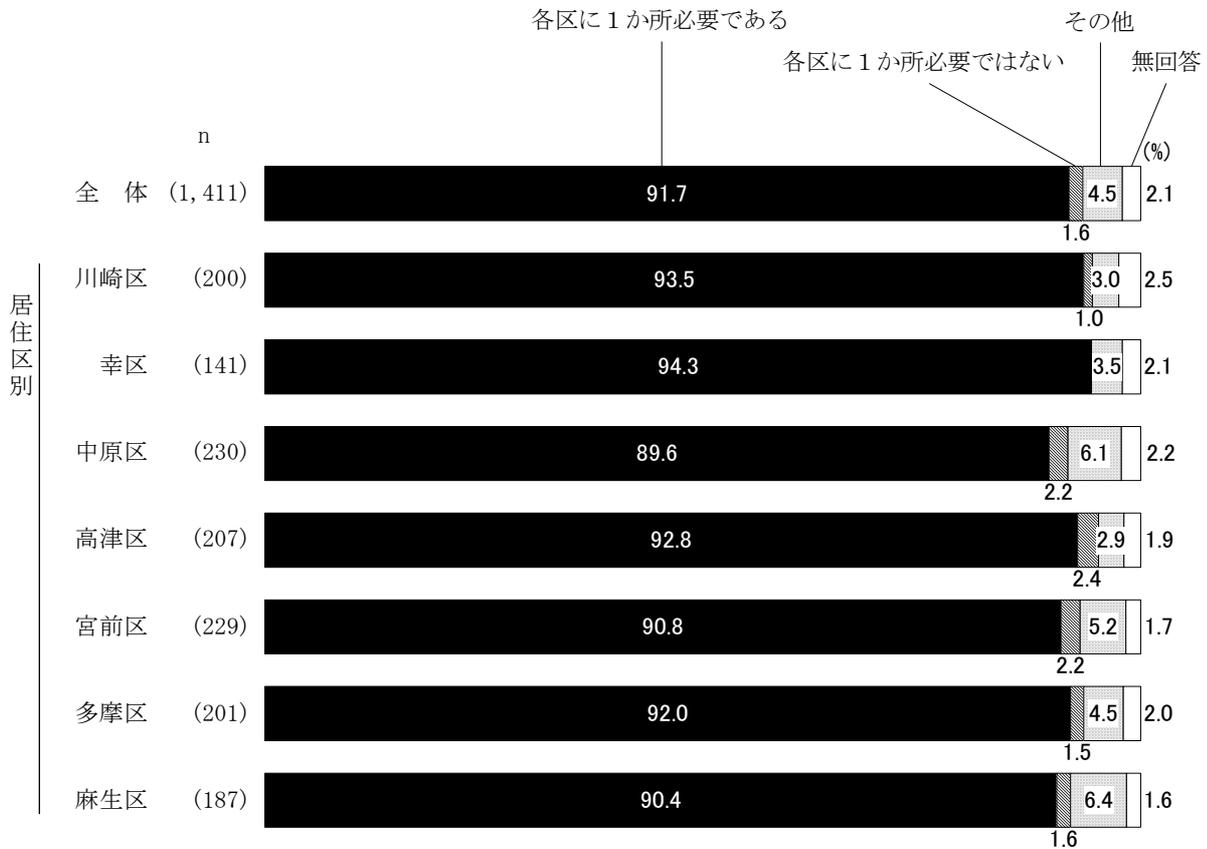
休日急患診療所の数は、「各区に1か所必要である」が91.7%である。一方、「各区に1か所必要ではない」が1.6%とわずかである。(図表6-16)

図表6-17 休日急患診療所の数について(性/年齢別)



性/年齢別では、「各区に1か所必要である」は男性の20歳代と50歳代、女性の50歳代と60歳代が9割台半ばで多くなっている。一方、「各区に1か所必要ではない」は、全ての年代で1割未満となっている。(図表6-17)

図表6-18 休日急患診療所の数について（居住区別）



居住区別では、「各所に1か所必要である」は、全ての居住区で約9割台となっている。（図表6-18）

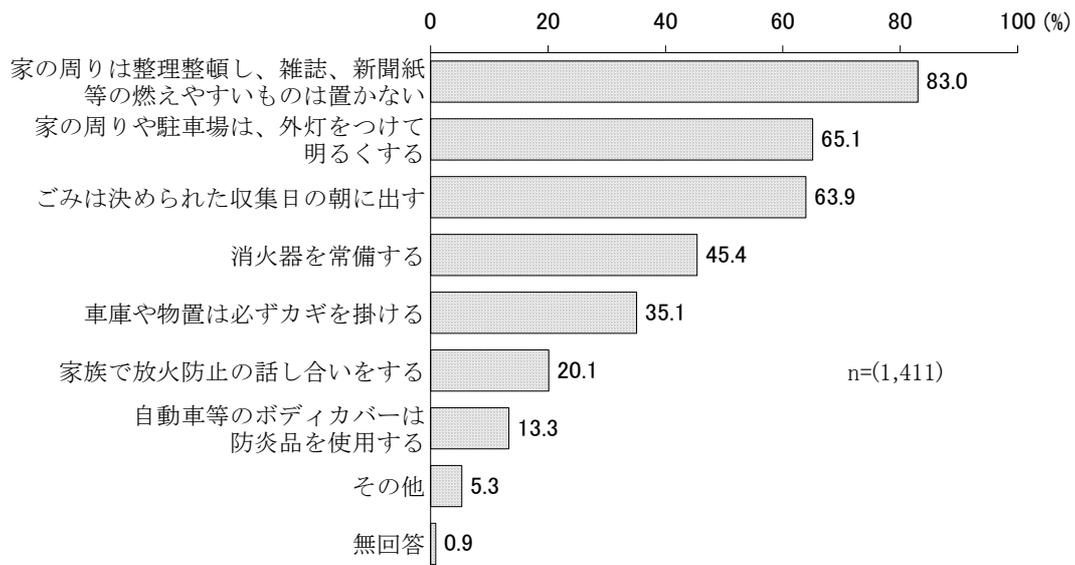
7 火災予防について

7-1 放火防止対策で大切だと思うこと

◎ 「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」が83.0%

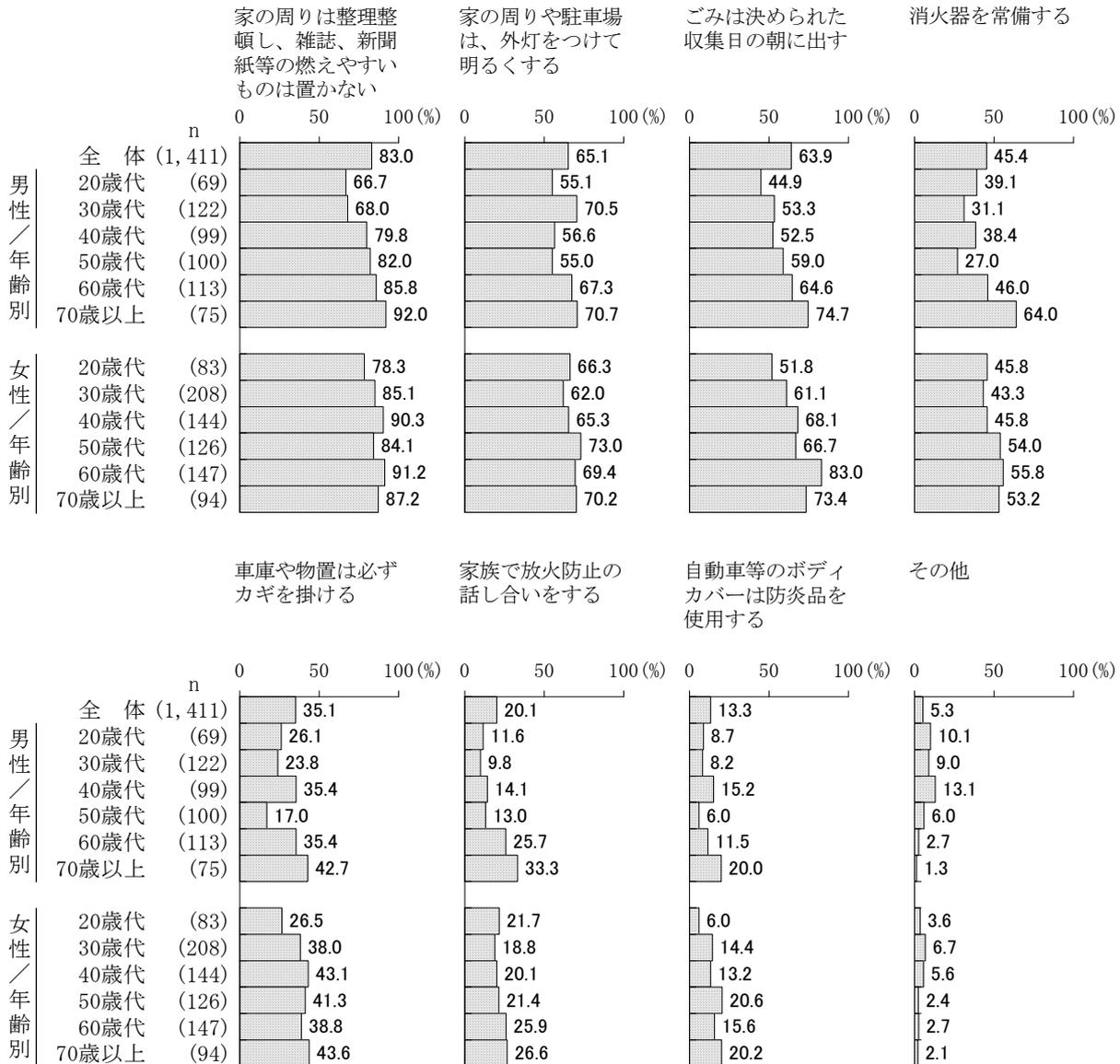
問20 火災の発生原因は、昭和51年から放火が第1位となっています。あなたは放火防止対策で何が大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表7-1 放火防止対策で大切だと思うこと



放火防止対策で大切だと思うことは、「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」(83.0%)が最も多くなっている。以下「家の周りや駐車場は、外灯をつけて明るくする」(65.1%)、「ごみは決められた収集日の朝に出す」(63.9%)、「消火器を常備する」(45.4%)、「車庫や物置は必ずカギを掛ける」(35.1%)と続いている。(図表7-1)

図表7-2 放火防止対策で大切だと思うこと（性／年齢別）



性／年齢別では、「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」は、男性の70歳以上と女性の60歳代が9割台前半、女性の40歳代が約9割で多くなっている。「家の周りや駐車場は、外灯をつけて明るくする」は、女性の50歳代が7割台前半で最も多く、男性の30歳代と70歳以上、女性の70歳以上が約7割となっている。「ごみは決められた収集日の朝に出す」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、特に女性の60歳代が8割台前半となっている。「消火器を常備する」は、男性の70歳以上が6割台前半で最も多く、女性の50歳代から70歳以上が5割台半ばとなっている。(図表7-2)

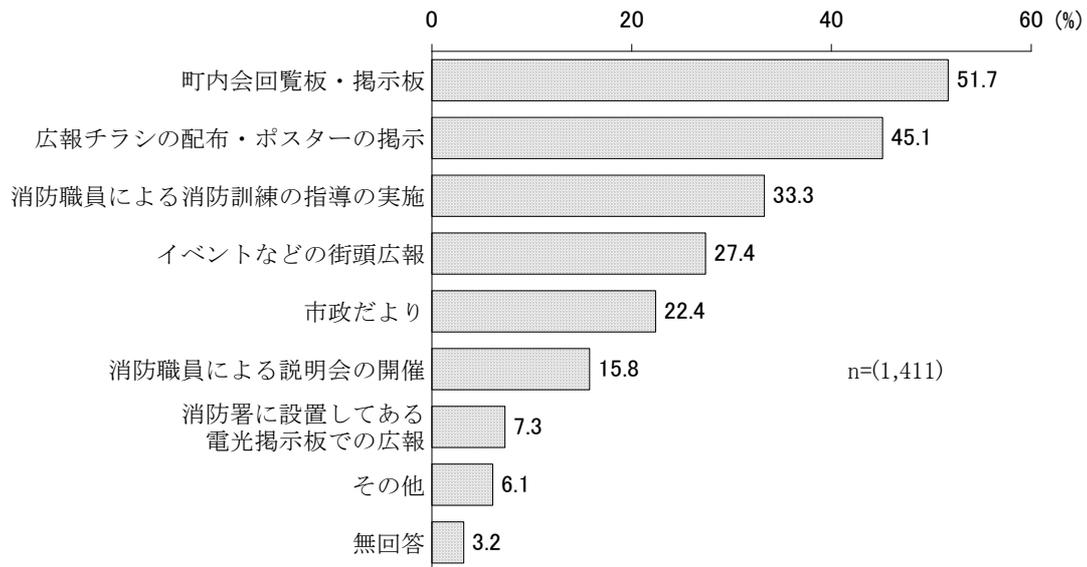
7-2 火災予防啓発のための広報で効果的だと思うこと

◎ 「町内会回覧板・掲示板」が51.7%

問21 火災予防の啓発のためにはどのような広報が効果的だと思いますか。

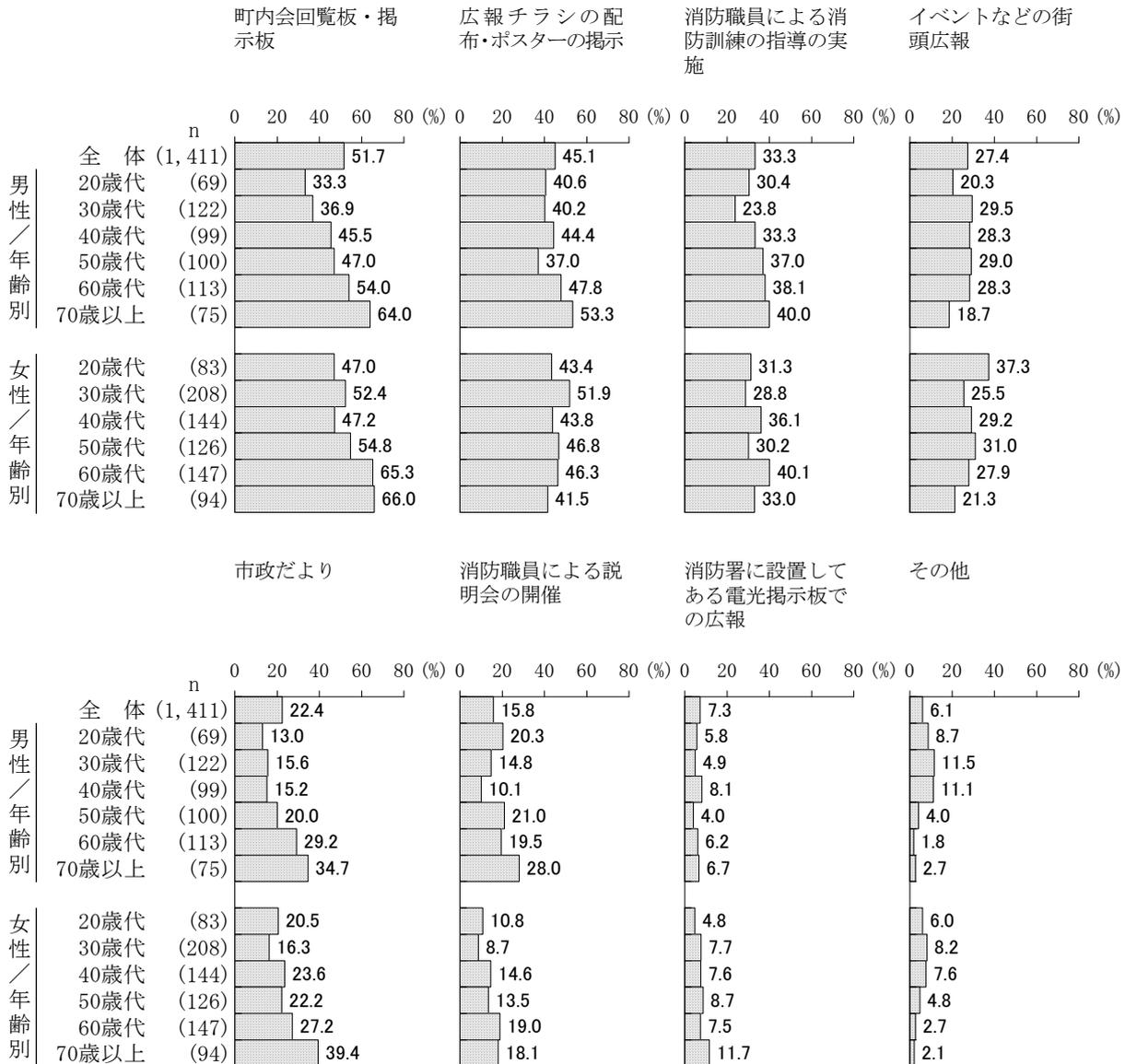
(あてはまるものすべてに○)

図表7-3 火災予防啓発のための広報で効果的だと思うこと



火災予防啓発のための広報で効果的だと思うことは、「町内会回覧板・掲示板」(51.7%)が最も多くなっている。以下「広報チラシの配布・ポスターの掲示」(45.1%)、「消防職員による消防訓練の指導の実施」(33.3%)、「イベントなどの街頭広報」(27.4%)と続いている。(図表7-3)

図表7-4 火災予防啓発のための広報で効果的だと思うこと（性／年齢別）



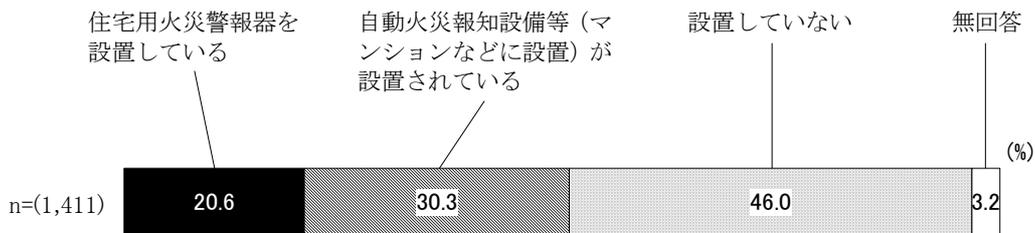
性／年齢別では、「町内会回覧板・掲示板」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっている。「広報チラシの配布・ポスターの掲示」は、男性の70歳以上と女性の30歳代が5割前半で多くなっている。「消防職員による消防訓練の指導の実施」は、男性の70歳以上と女性の60歳代が4割台で多くなっている。「市政だより」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっている。(図表7-4)

7-3 火災警報器等の設置の有無

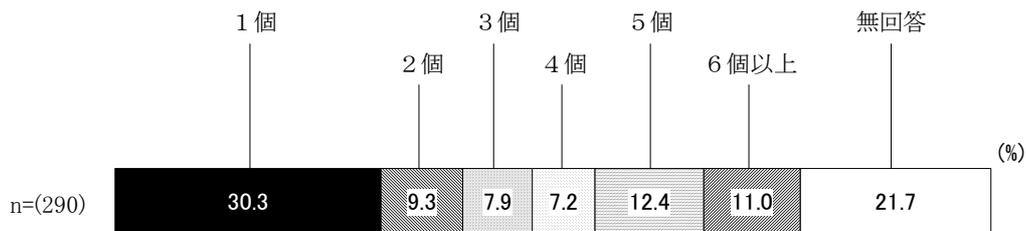
◎ 「設置していない」が46.0%

問22 川崎市では、住宅用火災警報器を、新築住宅においては平成18年6月1日から、すでにお住まいの住宅においては平成23年5月31日までに、寝室、台所、階段に設置することが義務化されました。火災警報器の設置の有無をお答え下さい。(〇は1つ)

図表7-5 火災警報器等の設置の有無



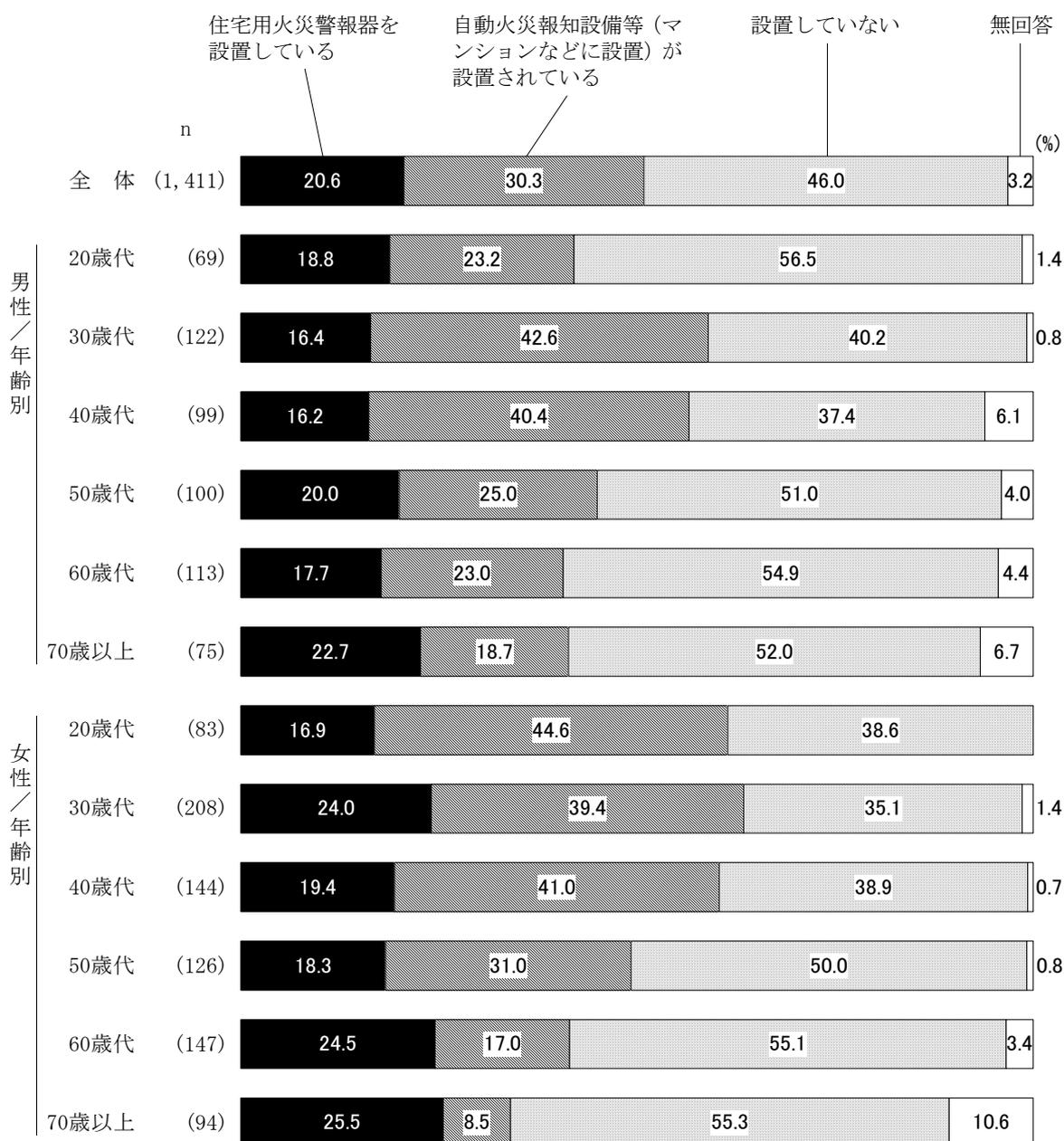
図表7-6 住宅用火災警報器の設置個数



火災警報器等の設置の有無は、「住宅用火災警報器を設置している」が20.6%、「自動火災報知設備等(マンションなどに設置)が設置されている」が30.3%となっている。一方、「設置していない」が46.0%である。(図表7-5)

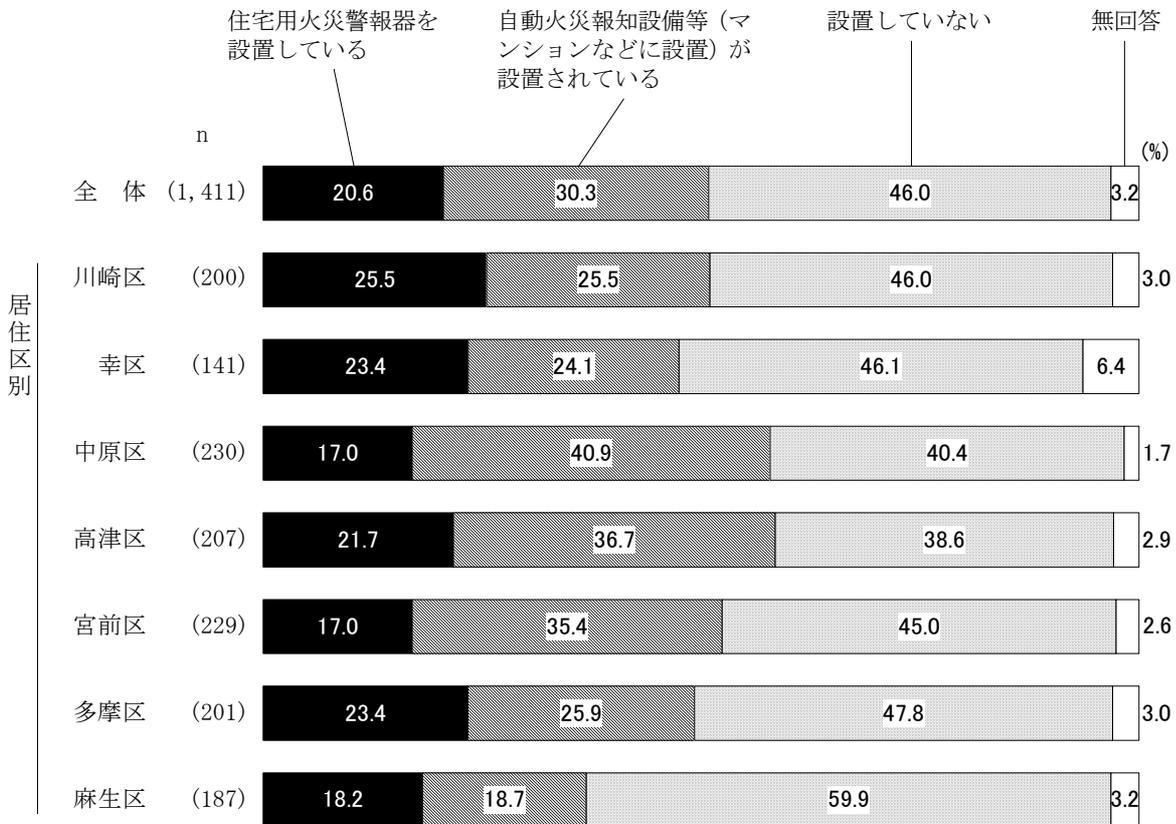
住宅用火災警報器の設置個数は、「1個」(30.3%)が最も多くなっている。以下「5個」(12.4%)、「6個以上」(11.0%)と続いている。(図表7-6)

図表7-7 火災警報器等の設置の有無(性/年齢別)



性/年齢別では、「住宅用火災警報器を設置している」は、女性の60歳代と70歳以上が2割台半ば、男性の50歳代と70歳以上が2割台となっている。「自動火災報知設備等(マンションなどに設置)が設置されている」は、男性の30歳代と40歳代、女性の20歳代と40歳代が4割台で多くなっている。一方、「設置していない」は、男性の20歳代が5割台後半で最も多く、男女ともに50歳代から70歳以上で5割台となっている。(図表7-7)

図表7-8 火災警報器等の設置の有無(居住区別)



居住区別では、「住宅用火災警報器を設置している」は、川崎区、幸区、高津区、多摩区が2割台となっている。「自動火災報知設備等(マンションなどに設置)が設置されている」は、中原区が4割で最も多く、高津区と宮前区が3割台半ばとなっている。一方、「設置していない」は、麻生区が約6割で最も多くなっている。(図表7-8)

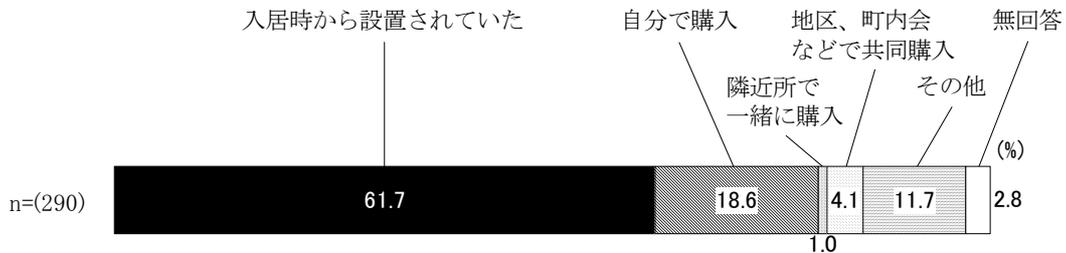
7-4 住宅用火災警報器の購入方法

◎ 「入居時から設置されていた」が61.7%

(問22で「1. 住宅用火災警報器を設置している」と答えた方にかがいます。)

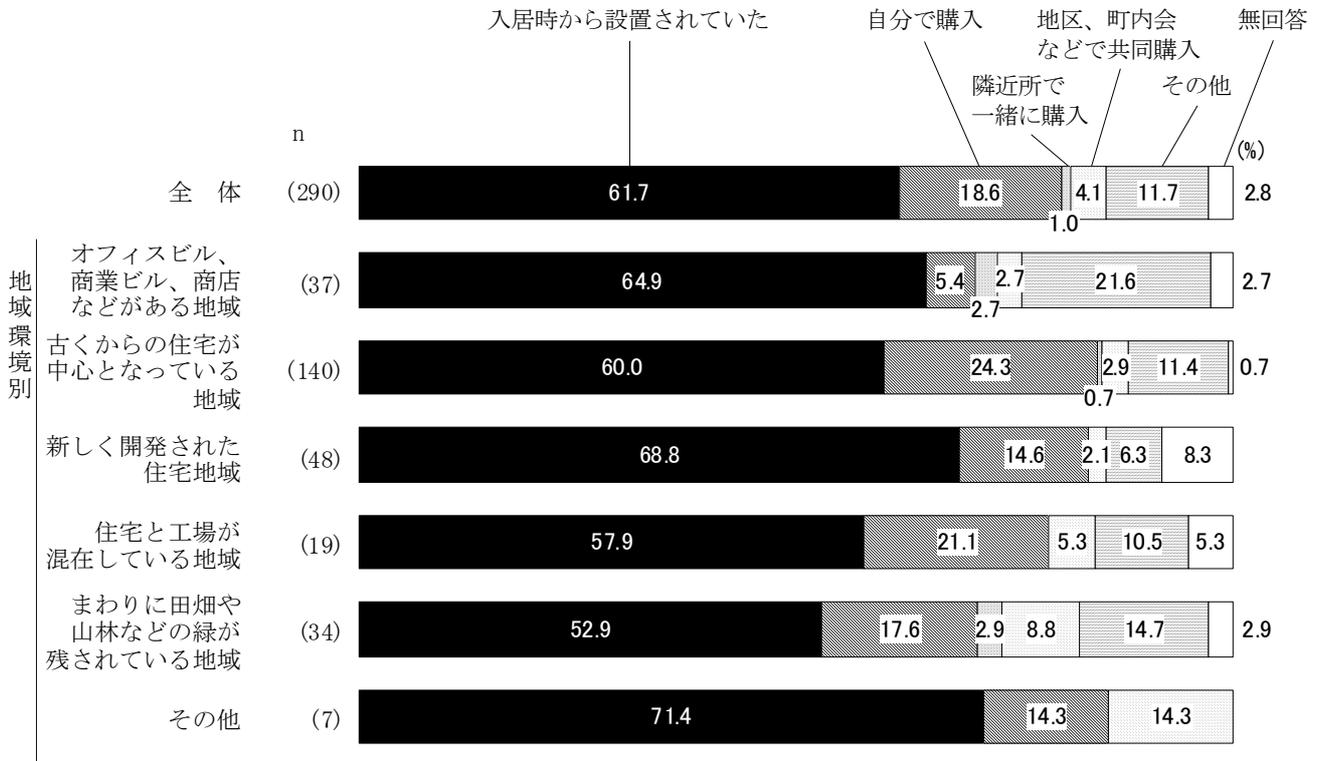
問22-(1) 住宅用火災警報器をどのように購入しましたか。(○は1つ)

図表7-9 住宅用火災警報器の購入方法



住宅用火災警報器の購入方法は、「入居時から設置されていた」が61.7%となっている。次いで、「自分で購入」が18.6%である。(図表7-9)

図表7-10 住宅用火災警報器の購入方法（地域環境別）



※地域環境別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表7-10)

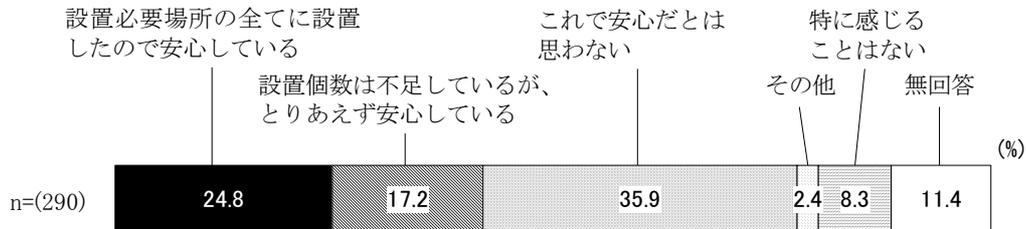
7-5 住宅用火災警報器を設置した感想

◎ 「設置必要場所の全てに設置したので安心している」が24.8%

(問22で「1. 住宅用火災警報器を設置している」と答えた方にうかがいます。)

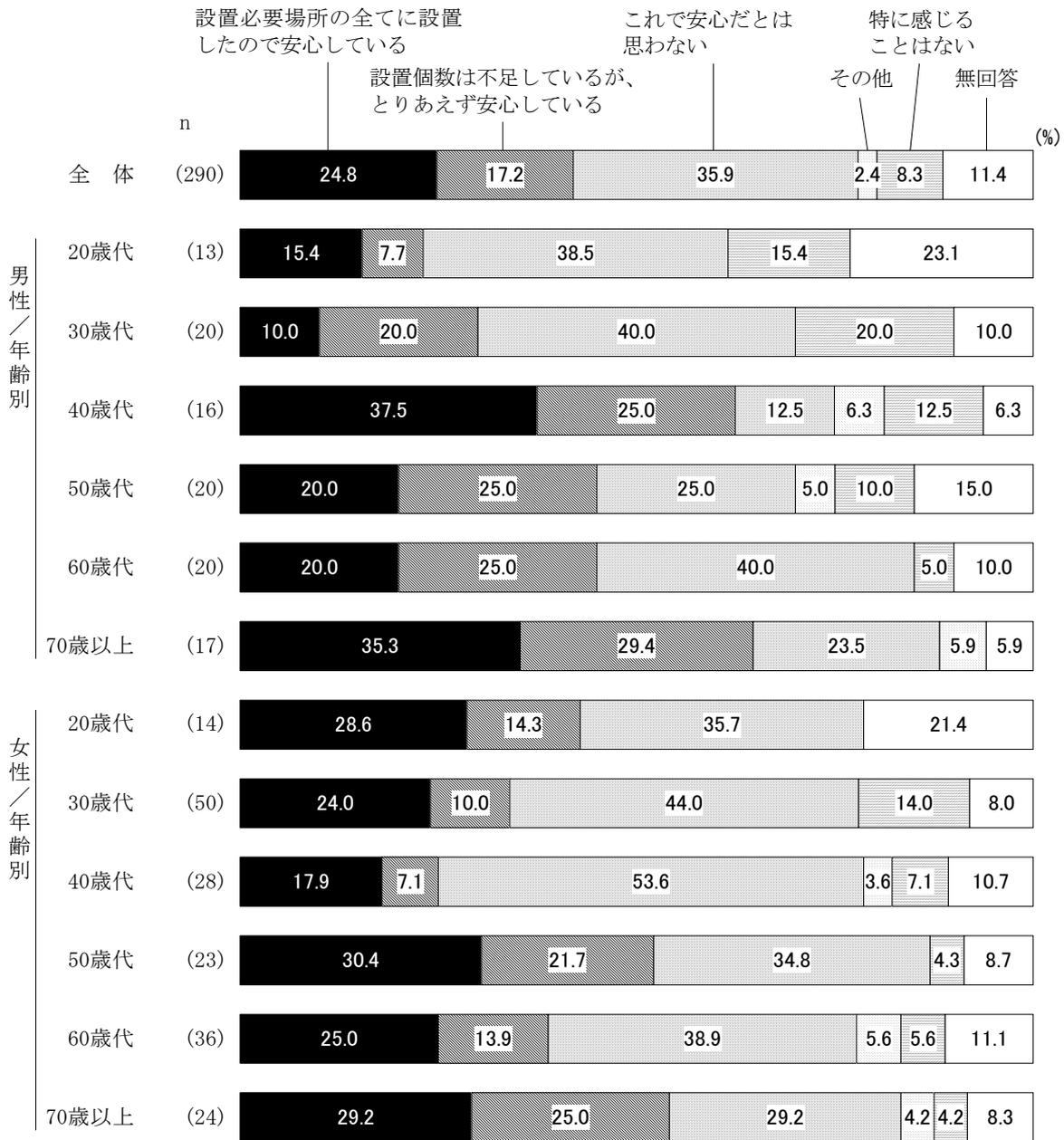
問22-(2) 設置した感想はいかがですか。(〇は1つ)

図表7-11 住宅用火災警報器を設置した感想



住宅用火災警報器を設置した感想は、「設置必要場所の全てに設置したので安心している」が24.8%、「設置個数は不足しているが、とりあえず安心している」が17.2%である。一方、「これで安心だとは思わない」が35.9%となっている。(図表7-11)

図表7-12 住宅用火災警報器を設置した感想(性/年齢別)



※地域環境別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表7-12)

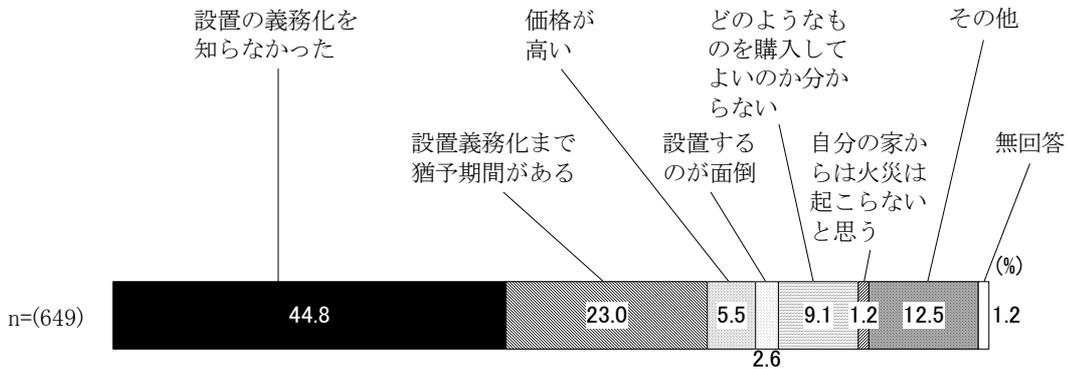
7-6 住宅用火災警報器を設置していない理由

◎ 「設置の義務化を知らなかった」が44.8%

(問22で「3. 設置していない」と答えた方にうかがいます。)

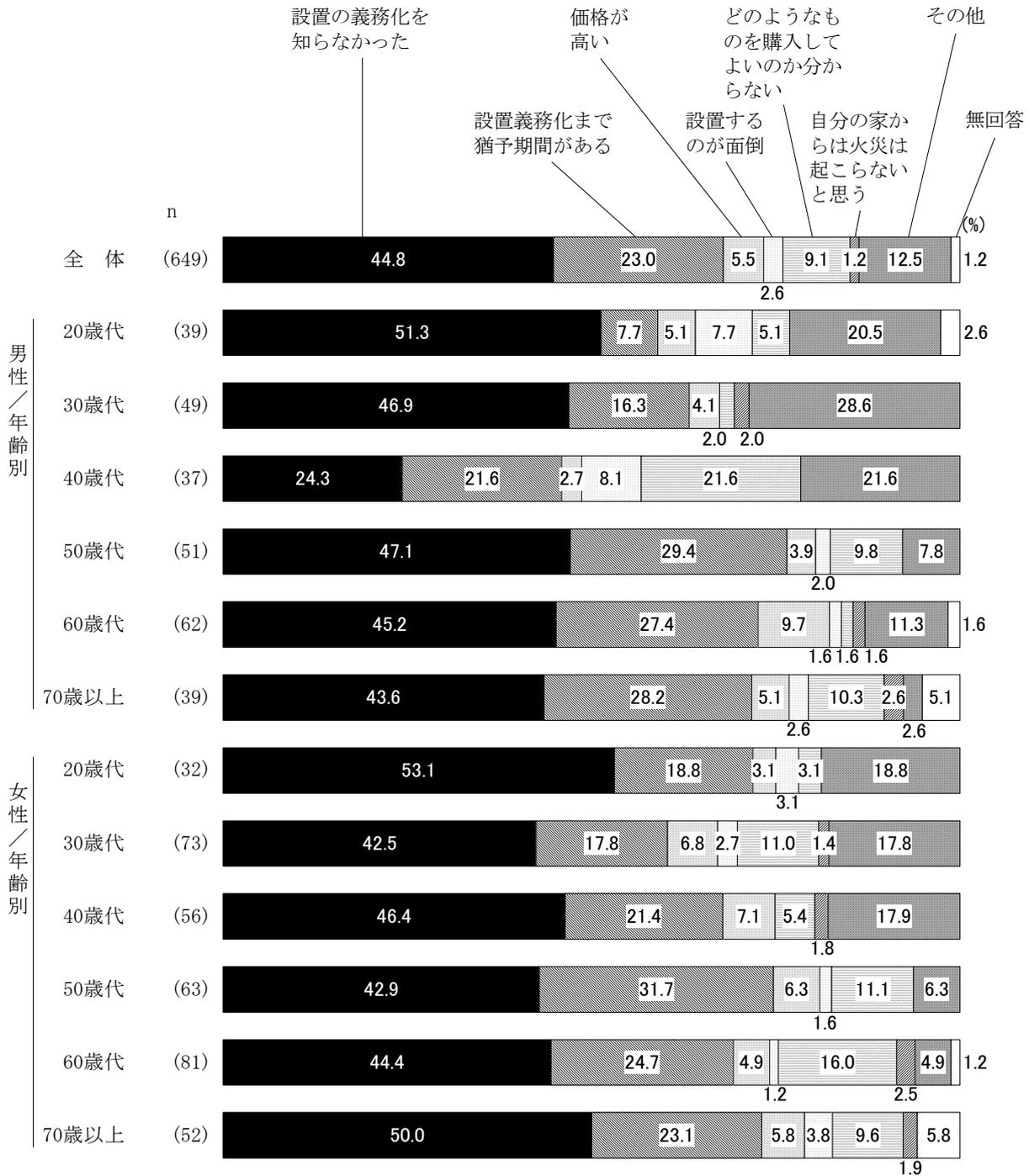
問22-(3) 設置していない理由は何ですか。(○は1つ)

図表7-13 住宅用火災警報器を設置していない理由



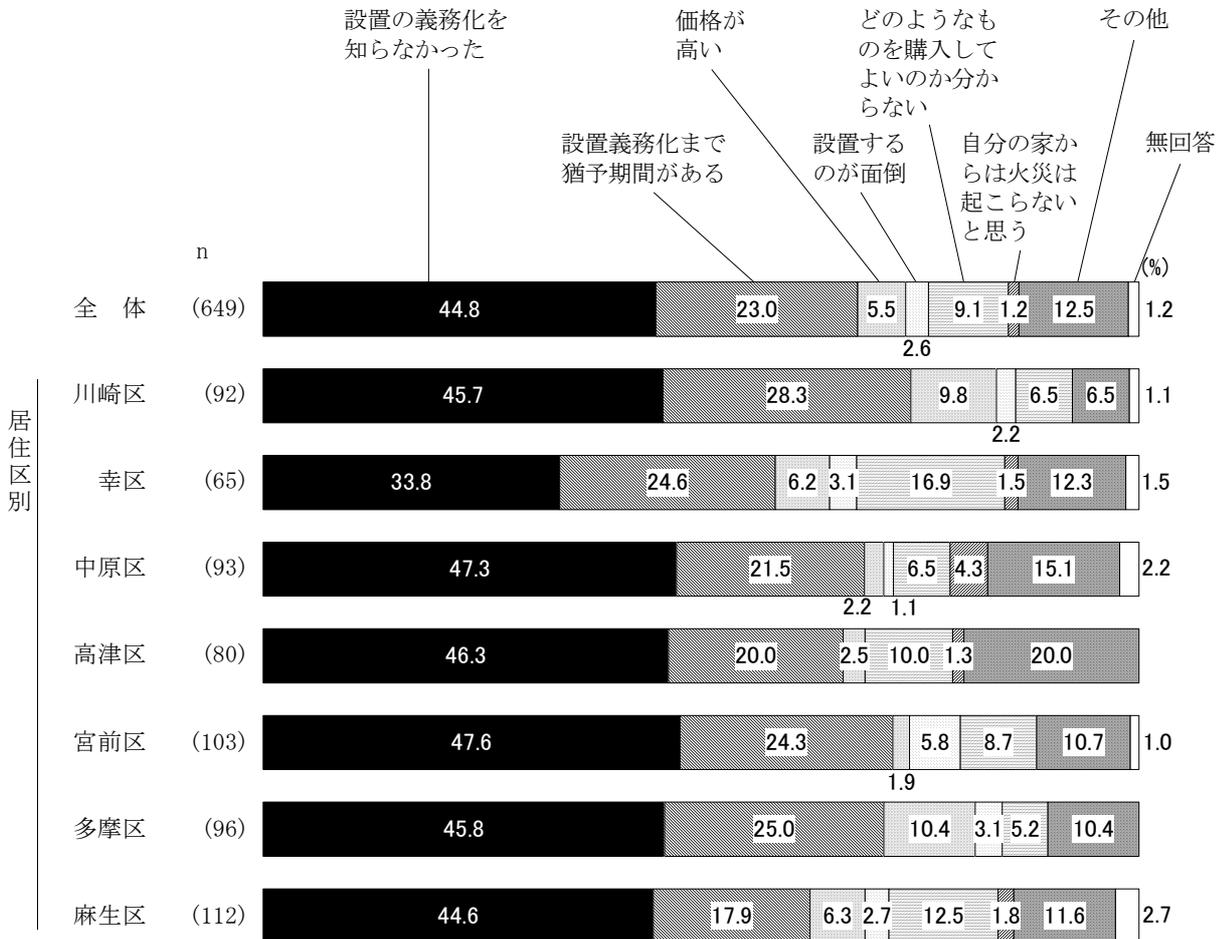
住宅用火災警報器を設置していない理由は、「設置の義務化を知らなかった」が44.8%である。以下「設置義務化まで猶予期間がある」(23.0%)、「どのようなものを購入してよいのか分からない」(9.1%)と続いている。(図表7-13)

図表7-14 住宅用火災警報器を設置していない理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「設置の義務化を知らなかった」は、男女ともに20歳代が5割前半で最も多く、女性の70歳以上でも5割となっている。「設置義務化まで猶予期間がある」は、男女ともに50歳代が約3割で多くなっている。「どのようなものか購入してよいのか分からない」は、男性の40歳代が2割前半で最も多くなっている。(図表7-14)

図表7-15 住宅用火災警報器を設置していない理由（居住区別）



居住区別では、「設置の義務化を知らなかった」は、幸区が3割台前半であるほかは、いずれの居住区においても4割台半ば以上となっている。「設置義務化まで猶予期間がある」は、川崎区が2割台後半で多くなっている。「どのようなものを購入してよいのか分からない」は、幸区が1割台半ばで最も多くなっている。(図表7-15)

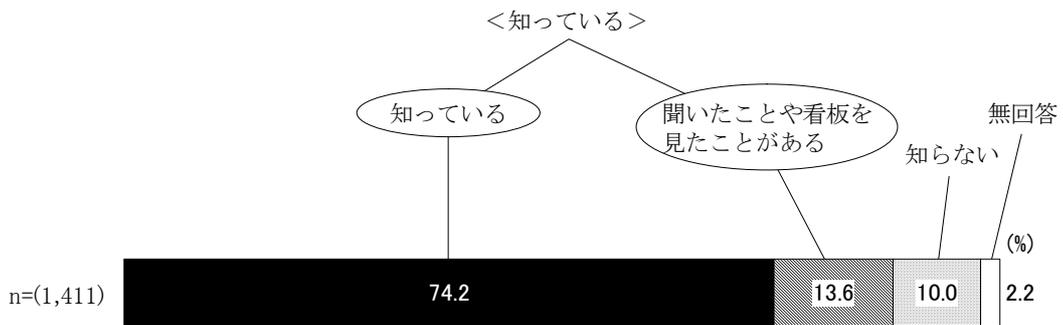
8 自転車等の利用について

8-1 駅周辺の自転車等放置禁止区域の認知状況

◎ <知っている>は87.8%

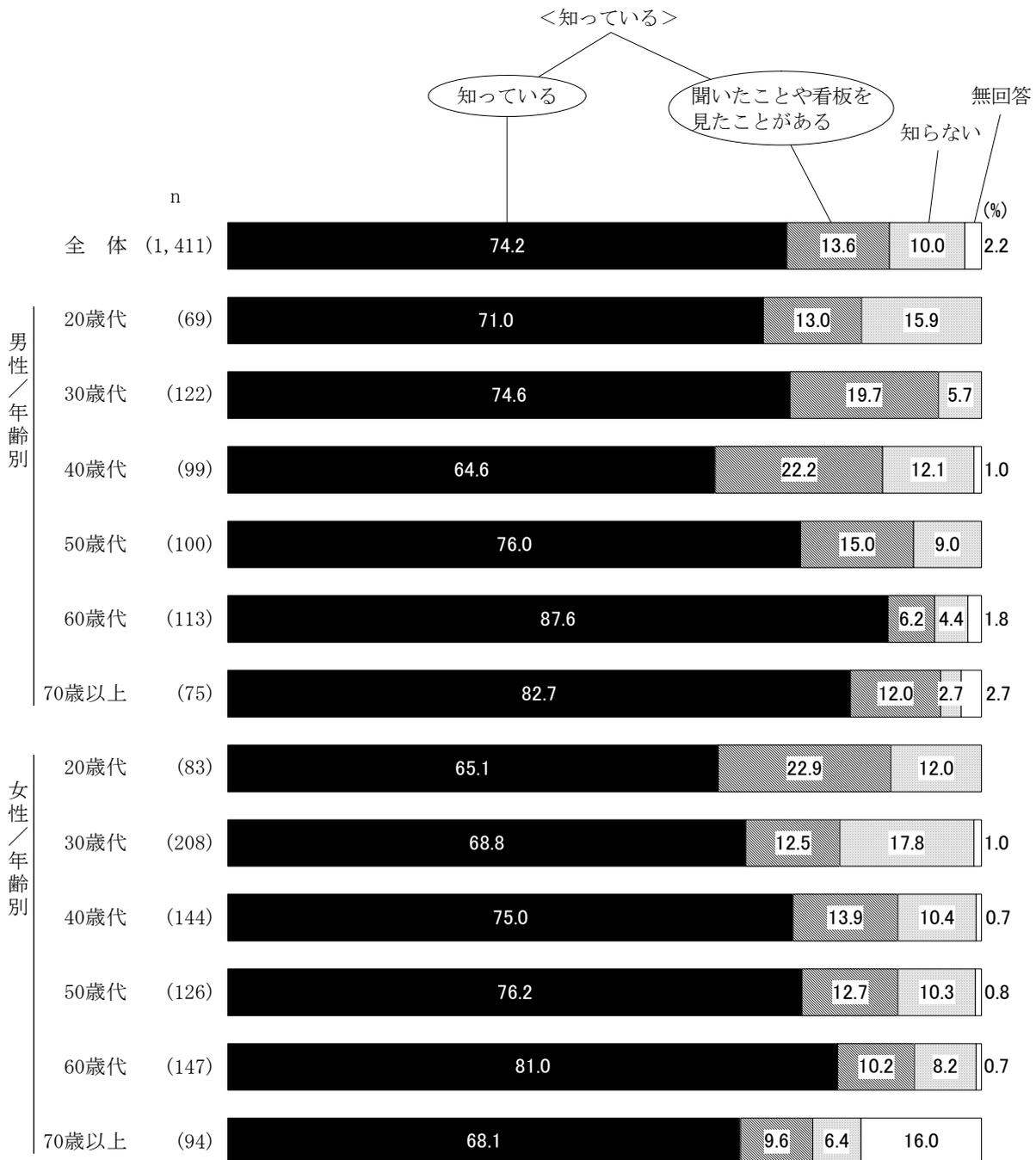
問23 駅周辺に自転車等放置禁止区域が指定されていることを知っていますか。(○は1つ)

図表8-1 駅周辺の自転車等放置禁止区域の認知状況



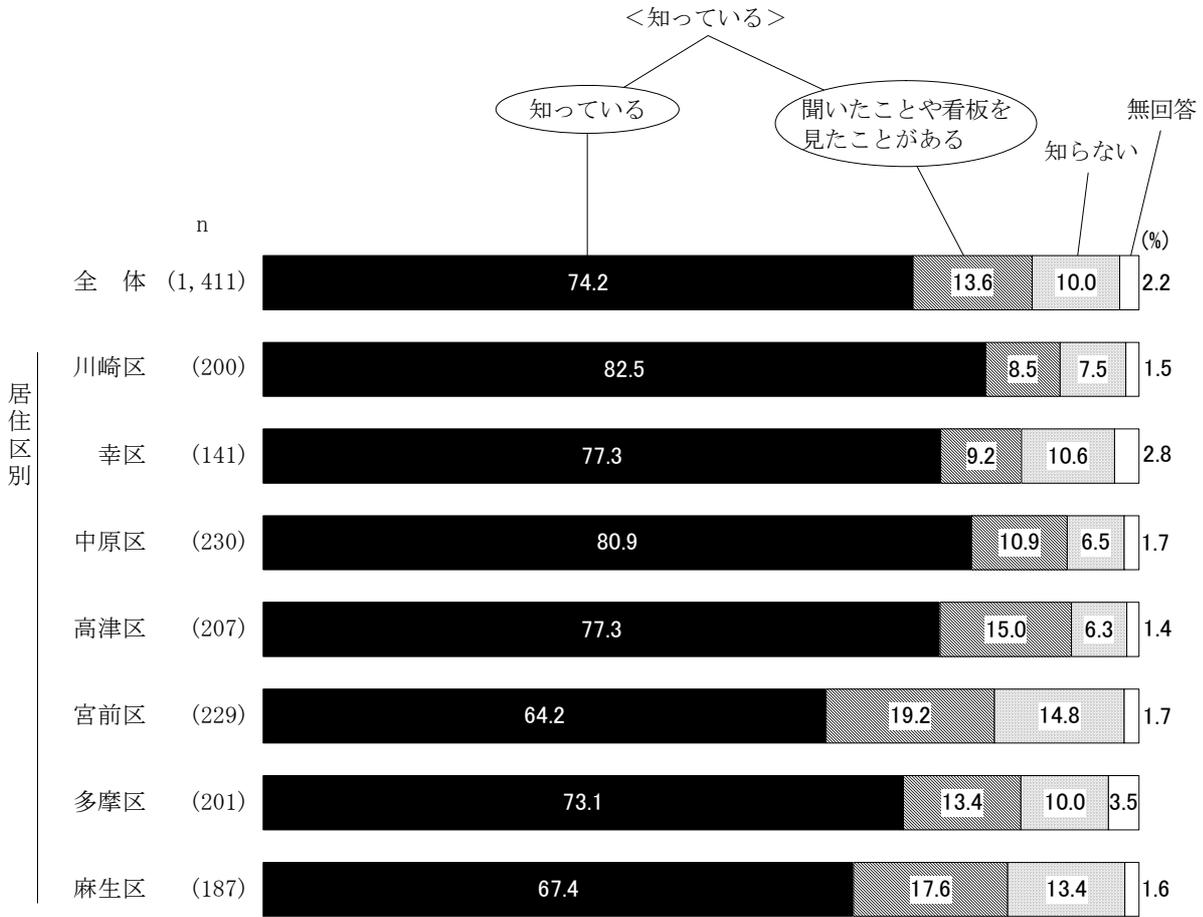
駅周辺の自転車等放置禁止区域の認知状況は、「知っている」(74.2%)と「聞いたことや看板を見たことがある」(13.6%)をあわせた<知っている>が87.8%となっている。一方、「知らない」は10.0%である。(図表8-1)

図表8-2 駅周辺の自転車等放置禁止区域の認知状況(性/年齢別)



性/年齢別では、<知っている>は、男性の30歳代、50歳代から70歳以上が9割台半ばで多くなっている。一方、「知らない」は、男性の20歳代と女性の30歳代が1割台半ばとなっている。(図表8-2)

図表8-3 駅周辺の自転車等放置禁止区域の認知状況(居住区別)



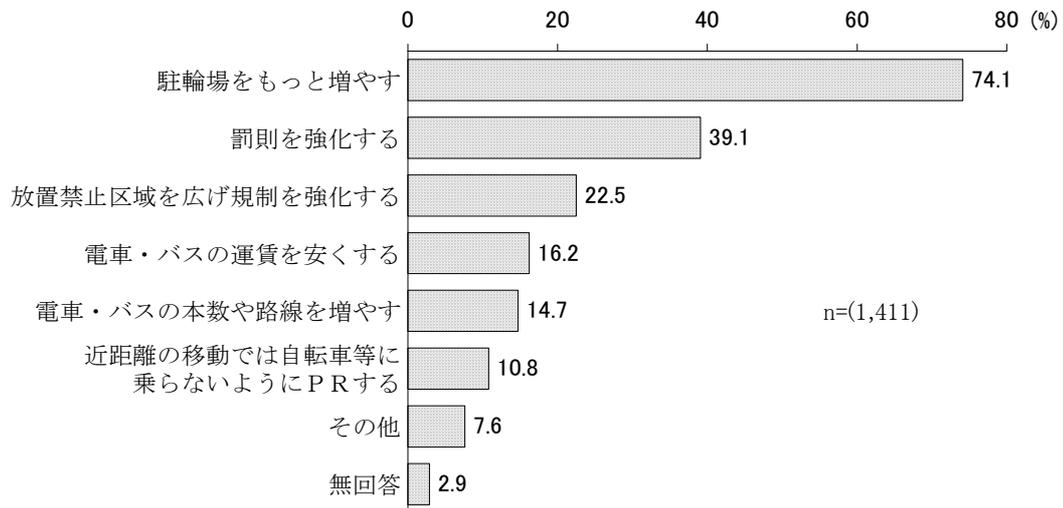
居住区別では、<知っている>は、川崎区、中原区、高津区が9割台前半で多くなっている。一方、「知らない」は、宮前区が1割台半ばとなっている。(図表8-3)

8-2 放置自転車の解消・緩和の対策として必要だと思うこと

◎ 「駐輪場をもっと増やす」が74.1%

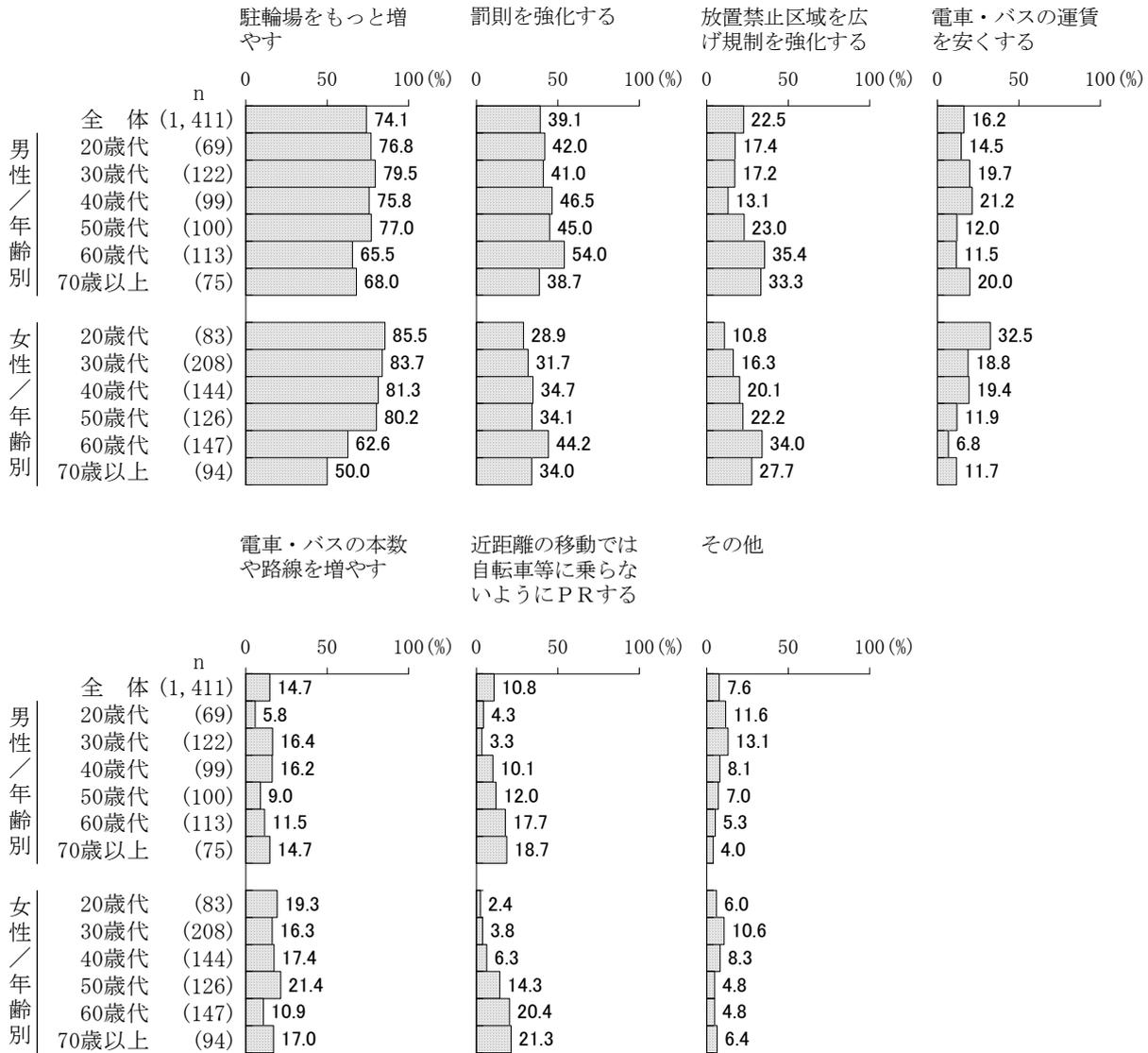
問24 放置自転車の解消や緩和の対策として何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表8-4 放置自転車の解消・緩和の対策として必要だと思うこと



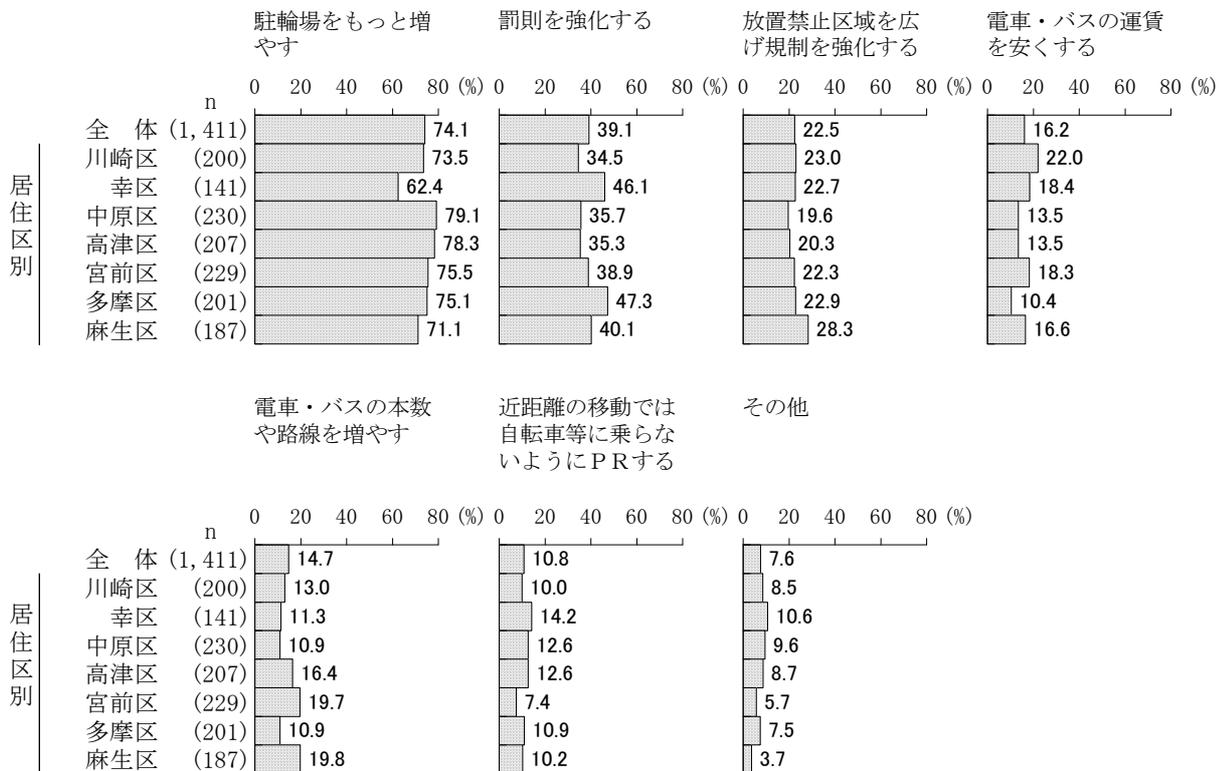
放置自転車の解消・緩和の対策として必要だと思うことは、「駐輪場をもっと増やす」(74.1%)が最も多くなっている。以下「罰則を強化する」(39.1%)、「放置禁止区域を広げ規制を強化する」(22.5%)、「電車・バスの運賃を安くする」(16.2%)と続いている。(図表8-4)

図表8-5 放置自転車の解消・緩和の対策として必要だと思うこと(性/年齢別)



性/年齢別では、「駐輪場をもっと増やす」は、男性の30歳代と女性の20歳代から50歳代が約8割以上となっている。「罰則を強化する」は、男女ともに60歳代が多く、特に男性が5割台半ばとなっている。「放置禁止区域を広げ規制を強化する」は、男性の60歳代と70歳以上、女性の60歳代が3割台半ばで多くなっている。「電車・バスの運賃を安くする」は、女性の20歳代が3割台前半で最も多くなっている。「近距離の移動では自転車等に乗らないようにPRする」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっている。(図表8-5)

図表8-6 放置自転車の解消・緩和の対策として必要だと思うこと（居住区別）



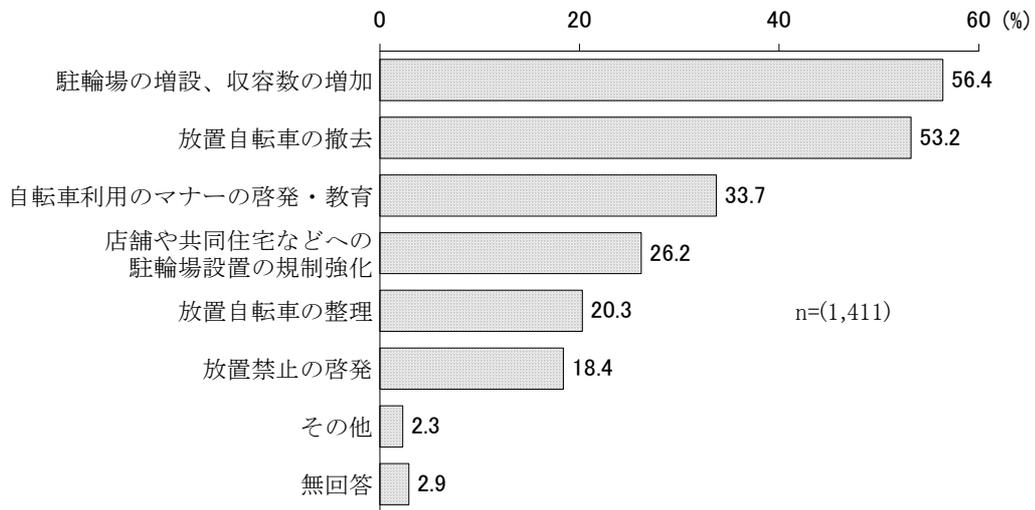
居住区別では、「駐輪場をもっと増やす」は、幸区が6割台前半で低く、それ以外の居住区はいずれも7割台となっている。「罰則を強化する」は、幸区と多摩区が4割台後半で多くなっている。「放置禁止区域を広げ規制を強化する」は、いずれの居住区でも約2割台となっている。(図表8-6)

8-3 放置自転車対策で重点的に進めてほしいこと

◎ 「駐輪場の増設、収容数の増加」が56.4%、「放置自転車の撤去」が53.2%

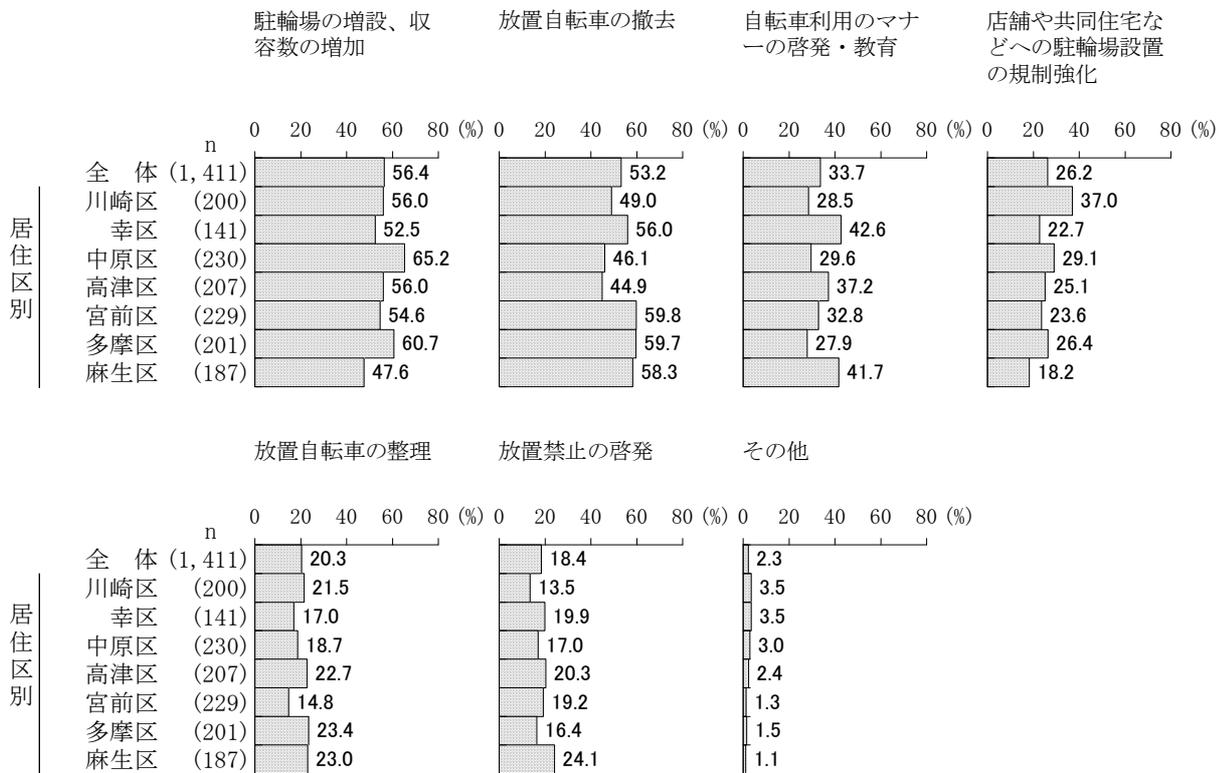
問25 放置自転車対策で重点的に進めてほしいことは次のどれですか。(〇は3つまで)

図表8-7 放置自転車対策で重点的に進めてほしいこと



放置自転車対策で重点的に進めてほしいことは、「駐輪場の増設、収容数の増加」(56.4%)、「放置自転車の撤去」(53.2%)が多くなっている。以下「自転車利用のマナーの啓発・教育」(33.7%)、「店舗や共同住宅などへの駐輪場設置の規制強化」(26.2%)、「放置自転車の整理」(20.3%)、「放置禁止の啓発」(18.4%)と続いている。(図表8-7)

図表8-8 放置自転車対策で重点的に進めてほしいこと（居住区別）



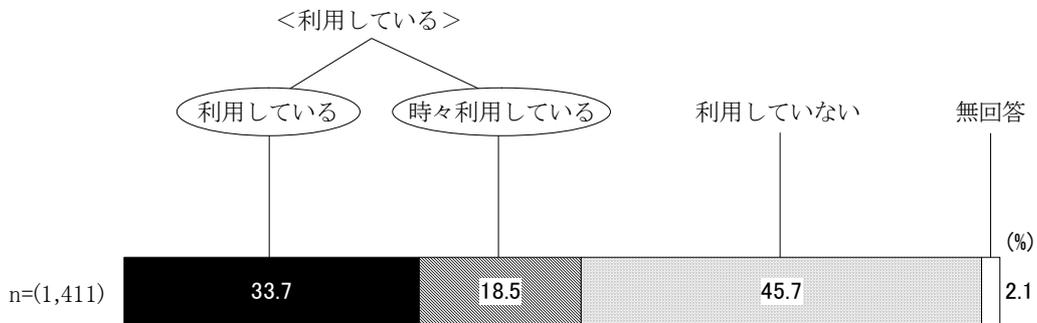
居住区別では、「駐輪場の増設、収容数の増加」は、中原区と多摩区で6割台と多くなっている。「放置自転車の撤去」は、宮前区、多摩区、麻生区が約6割で多くなっている。「自転車利用のマナーの啓発・教育」は、幸区と麻生区が4割台で多くなっている。「店舗や共同住宅などへの駐輪場設置の規制強化」は、川崎区が3割台後半で最も多くなっている。(図表8-8)

8-4 自転車・ミニバイクの利用状況

◎ <利用している>は52.2%

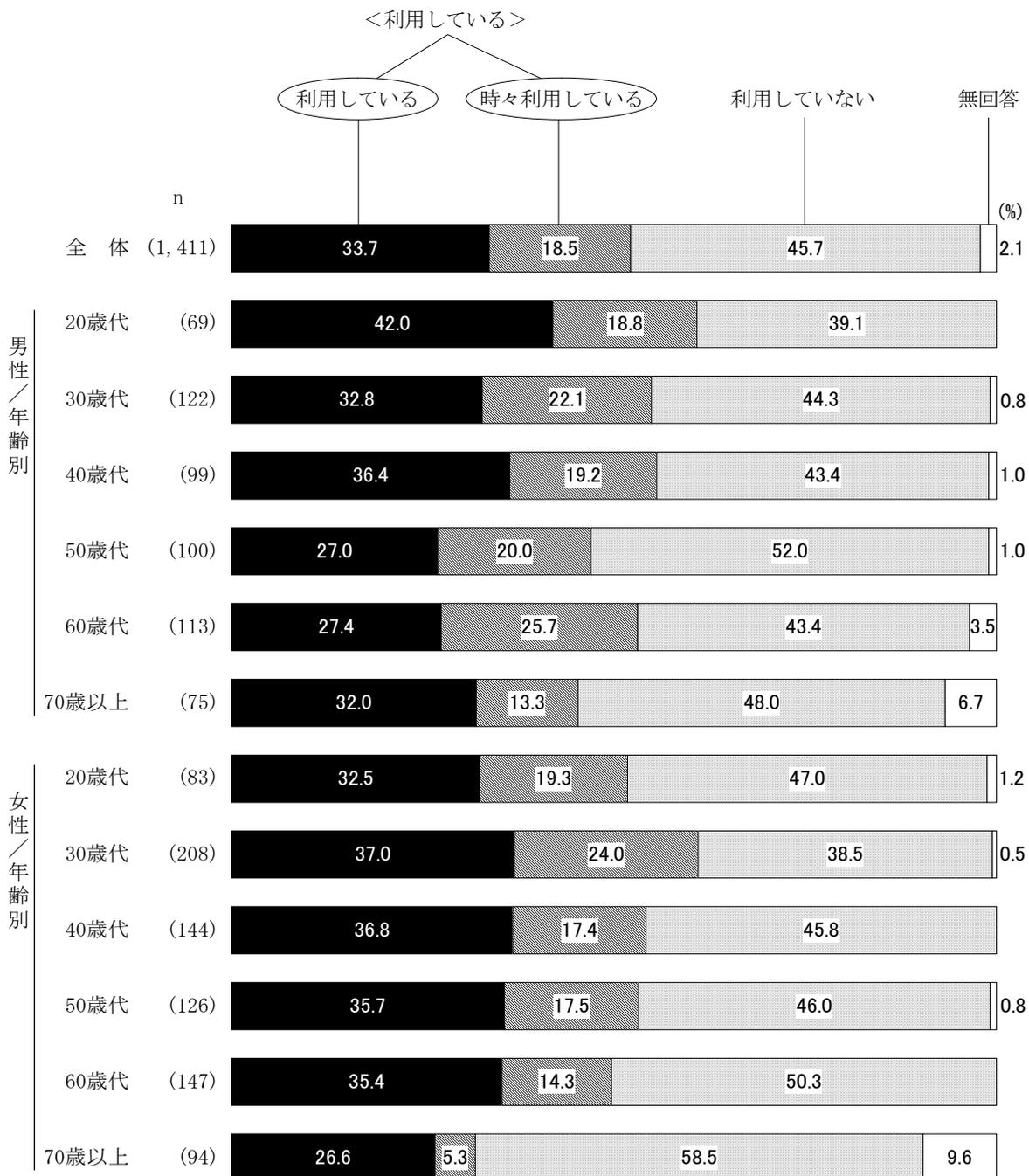
問26 自転車またはミニバイクを利用していますか。(○は1つ)

図表8-9 自転車・ミニバイクの利用状況



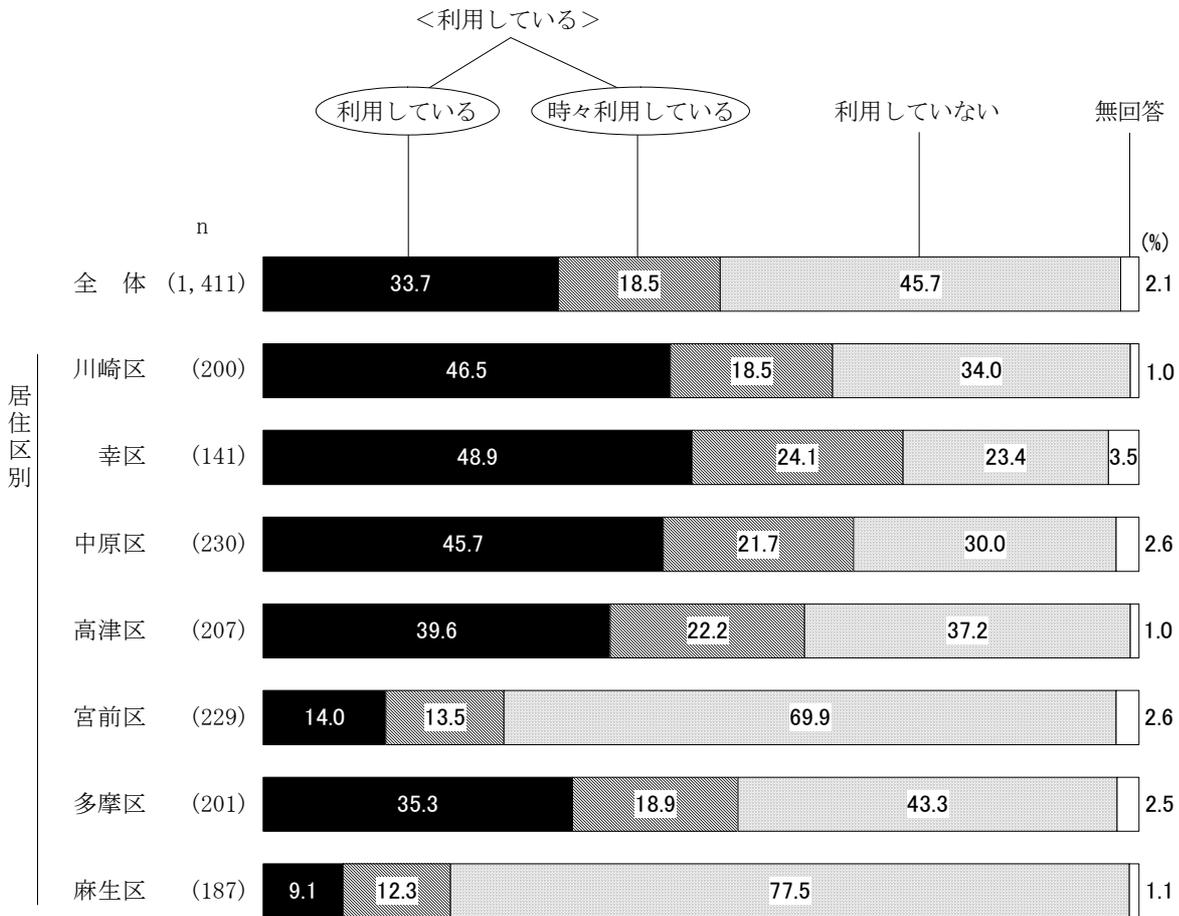
自転車・ミニバイクの利用状況は、「利用している」(33.7%)と「時々利用している」(18.5%)をあわせた<利用している>が52.2%となっている。一方、「利用していない」が45.7%である。(図表8-9)

図表8-10 自転車・ミニバイクの利用状況（性／年齢別）



性／年齢別では、「利用している」と「時々利用している」をあわせた<利用している>は、男性の20歳代と女性の30歳代が6割台で多くなっている。一方、「利用していない」は、男性の50歳代、女性の60歳代と70歳以上が5割台で多くなっている。(図表8-10)

図表8-11 自転車・ミニバイクの利用状況（居住区別）



居住区別では、「利用している」と「時々利用している」をあわせた<利用している>は幸区で7割台と最も高く、川崎区、中原区、高津区で6割台となっている。一方、「利用していない」は麻生区で7割台後半、宮前区で約7割となっている。(図表8-11)

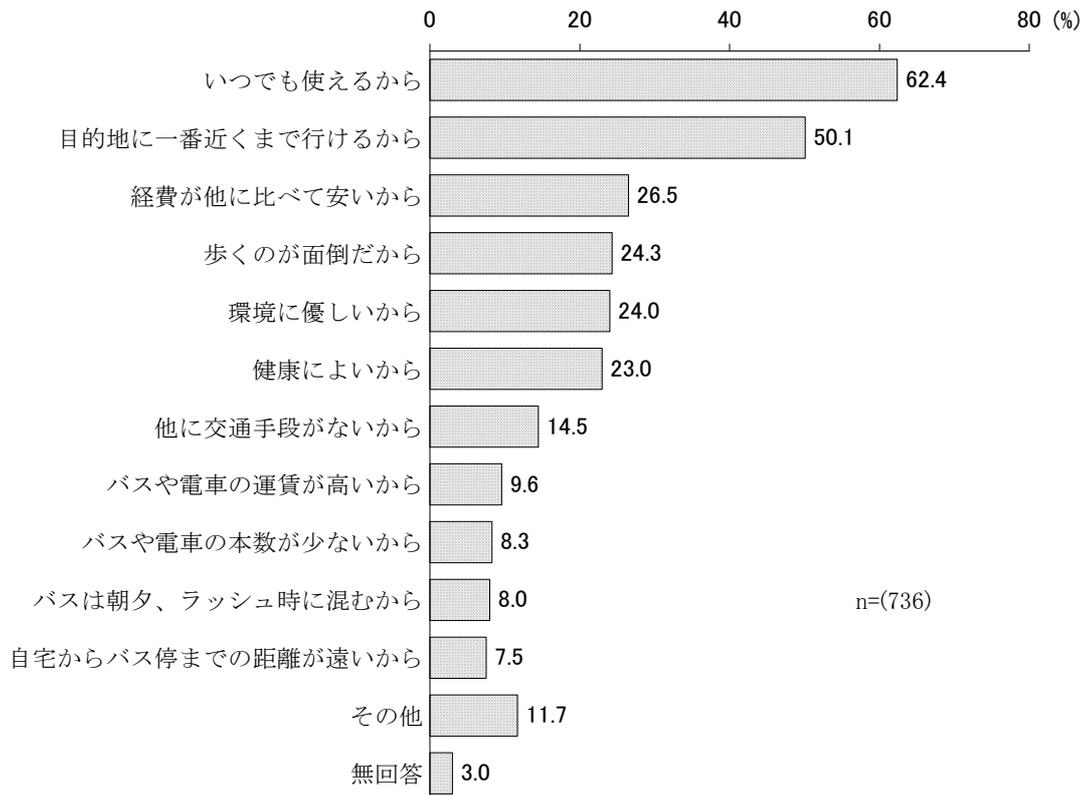
8-5 自転車・ミニバイクの利用理由

◎ 「いつでも使えるから」が62.4%

(問26で「1. 利用している」または「2. 時々利用している」と答えた方にうかがいます。)

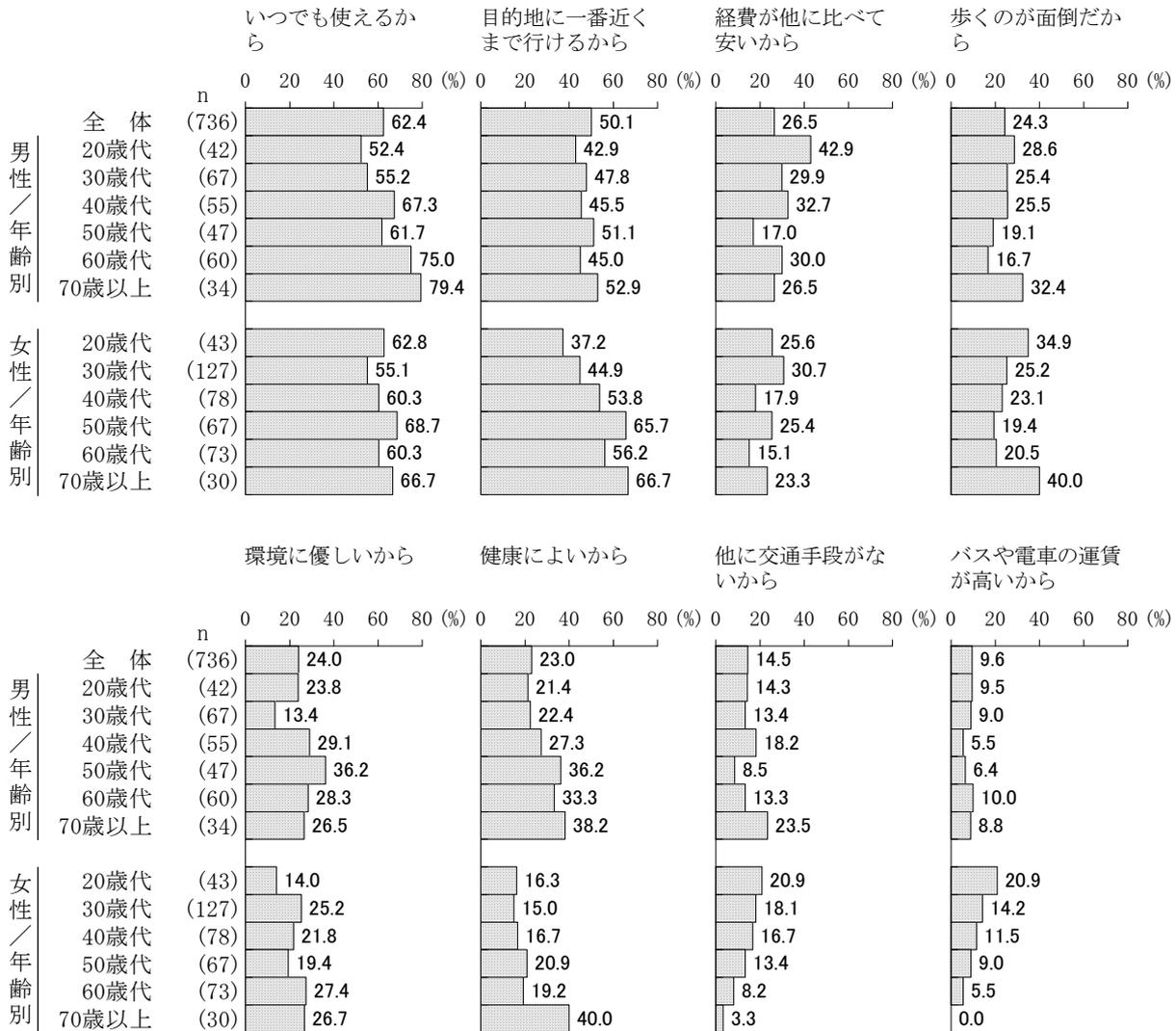
問26- (1) 自転車またはミニバイクを利用する理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表8-12 自転車・ミニバイクの利用理由



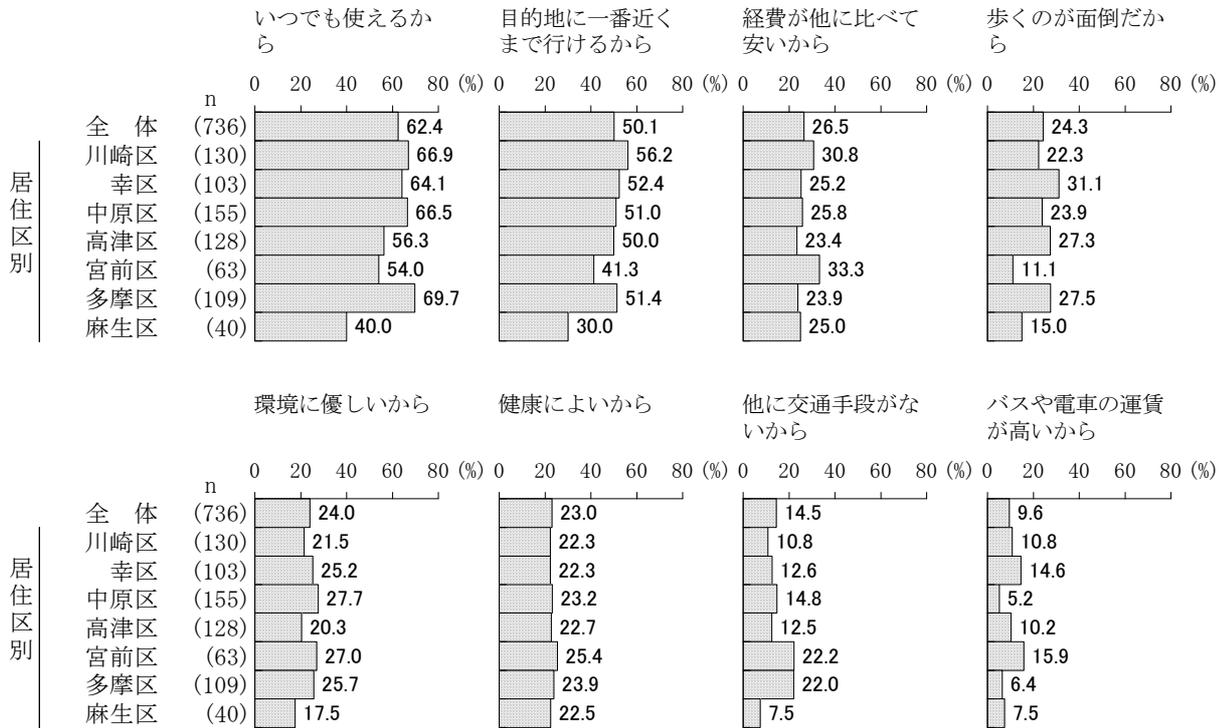
自転車・ミニバイクの利用理由は、「いつでも使えるから」(62.4%)が最も多くなっている。以下「目的地に一番近くまで行けるから」(50.1%)、「経費が他に比べて安いから」(26.5%)、「歩くのが面倒だから」(24.3%)、「環境に優しいから」(24.0%)、「健康によいから」(23.0%)と続いている。(図表8-12)

図表8-13 自転車・ミニバイクの利用理由(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「いつでも使えるから」は、男性の60歳代と70歳以上が7割台で多くなっている。「目的地に一番近くまで行けるから」は、女性の50歳代と70歳以上が6割台で多くなっている。「経費が他に比べて安いから」は、男性の20歳代が4割台前半で最も多くなっている。(図表8-13)

図表8-14 自転車・ミニバイクの利用理由（居住区別、上位8項目）



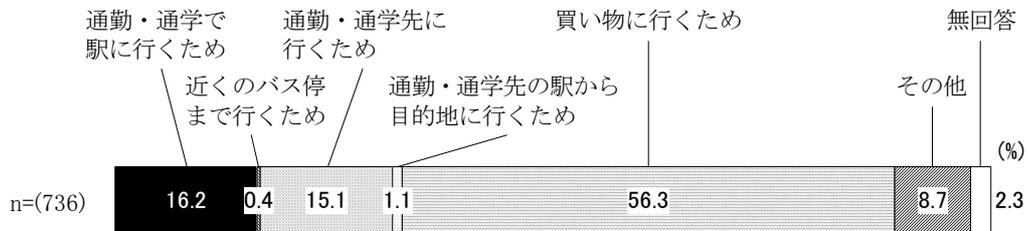
居住区別では、「いつでも使えるから」は、川崎区、幸区、中原区、多摩区が6割台となっている。「目的地に一番近くまで行けるから」は、川崎区が5割台後半で最も多くなっている。「経費が他に比べて安いから」は、川崎区、宮前区が3割台となっている。「歩くのが面倒だから」は、幸区が3割台前半で最も多くなっている。「環境に優しいから」は、中原区と宮前区が2割台後半となっている。「他に交通手段がないから」は、宮前区と多摩区が2割台前半で多くなっている。(図表8-14)

8-6 自転車・ミニバイクの利用目的

◎ 「買い物に行くため」が56.3%

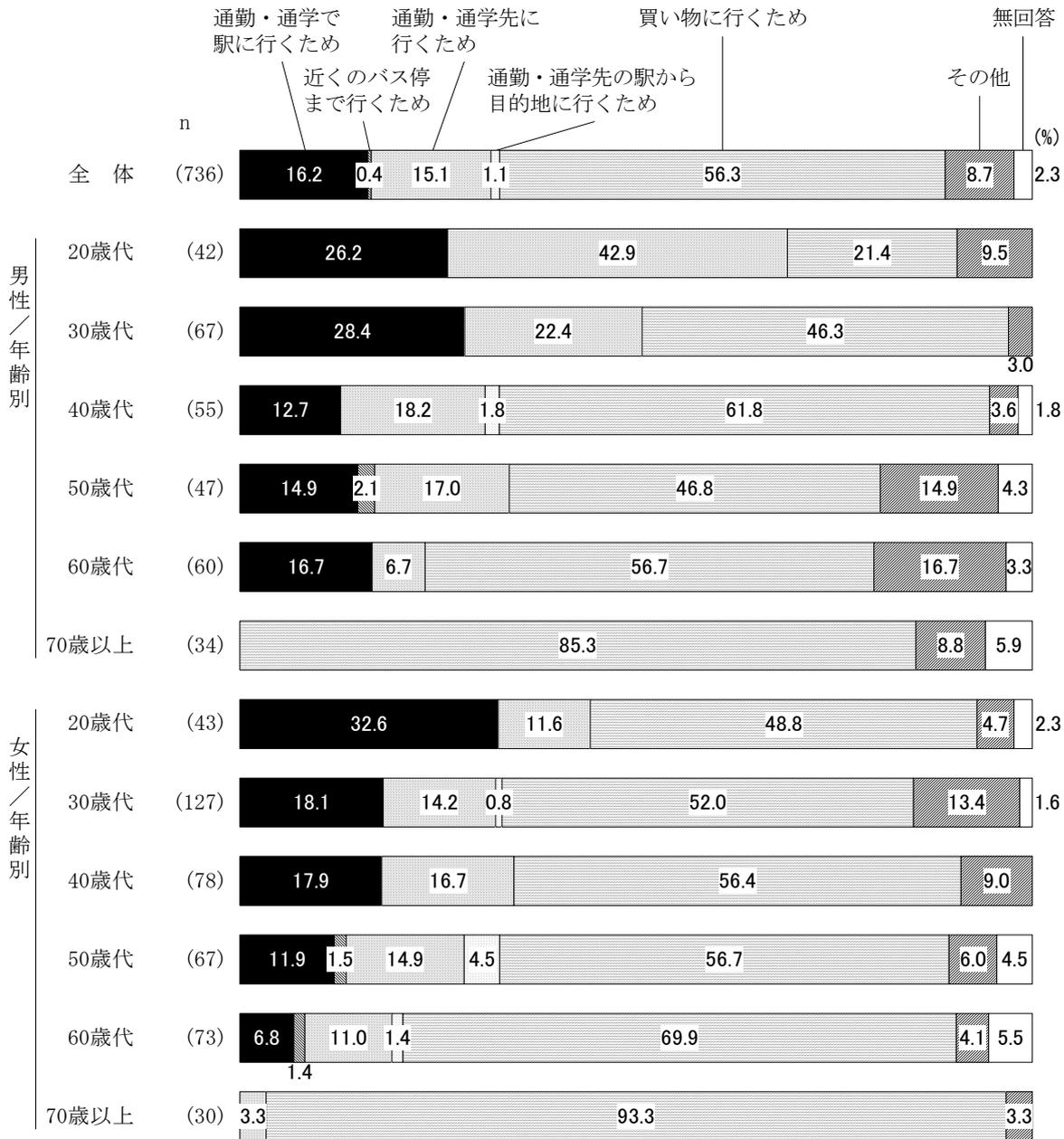
(問26で「1. 利用している」または「2. 時々利用している」と答えた方にうかがいます。)
問26-(2) 自転車またはミニバイクを利用する目的は何ですか。(〇は1つ)

図表8-15 自転車・ミニバイクの利用目的



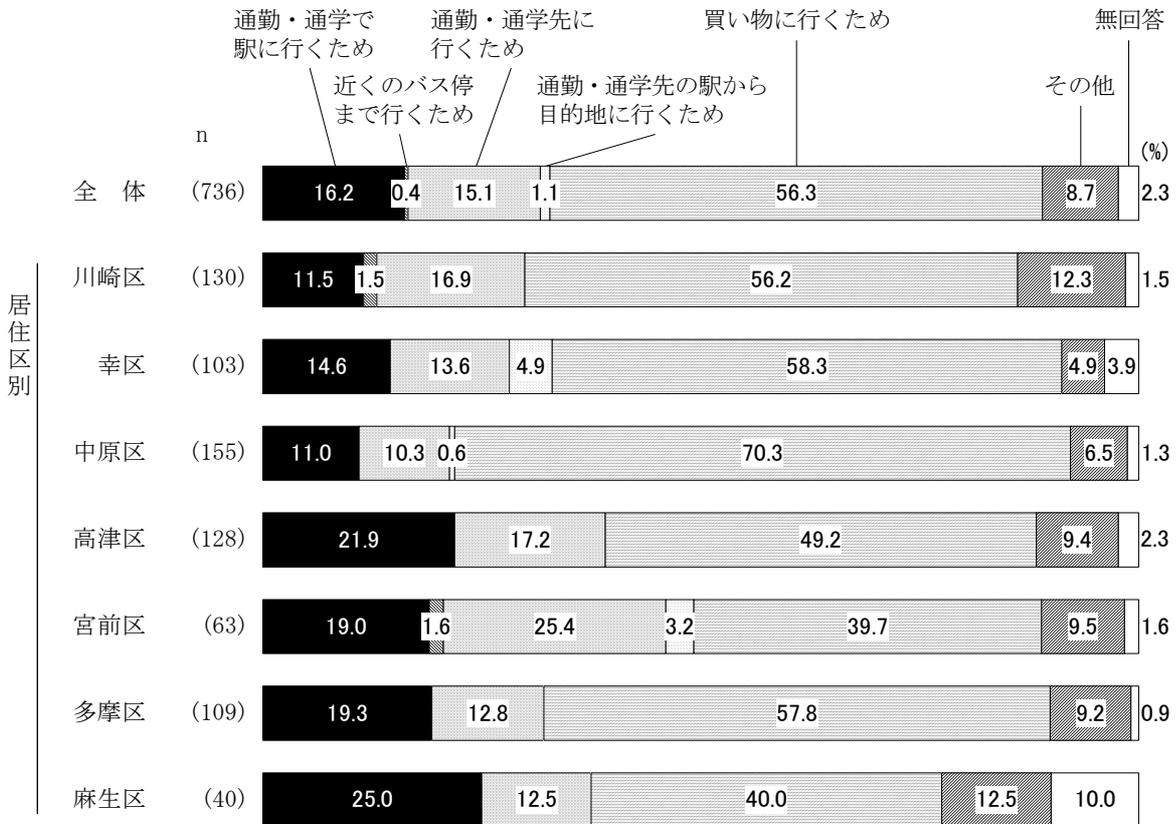
自転車・ミニバイクの利用目的は、「買い物に行くため」(56.3%)が最も多くなっている。以下「通勤・通学で駅に行くため」(16.2%)、「通勤・通学先に行くため」(15.1%)と続いている。(図表8-15)

図表8-16 自転車・ミニバイクの利用目的(性/年齢別)



性/年齢別では、「買い物に行くため」は、男女ともに70歳以上が最も多く、女性が9割前半、男性が8割台半ばとなっている。「通勤・通学で駅に行くため」は、女性の20歳代が3割前半で最も多く、男性の20歳代と30歳代が2割後半となっている。「通勤・通学先に行くため」は、男性の20歳代が4割前半で最も多くなっている。(図表8-16)

図表8-17 自転車・ミニバイクの利用目的（居住区別）



居住区別では、「買い物に行くため」は、中原区が約7割で最も多くなっている。「通勤・通学で駅に行くため」は、麻生区が2割台半ば、高津区が2割台前半となっている。「通勤・通学先に行くため」は、宮前区が2割台半ばで最も多くなっている。（図表8-17）

8-7 自転車・ミニバイクの駐輪時間

◎ 「2時間以下」が56.3%

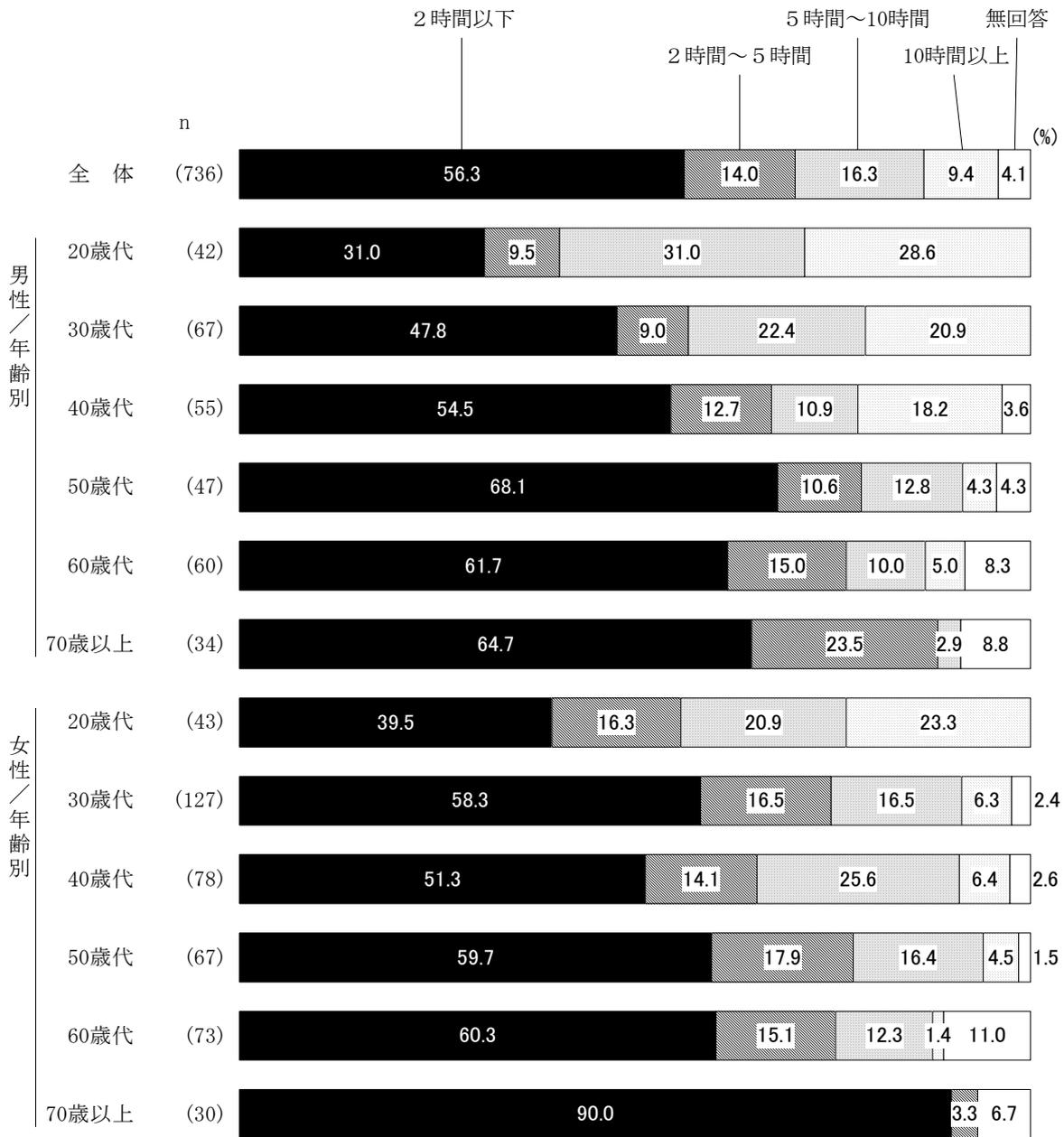
(問26で「1. 利用している」または「2. 時々利用している」と答えた方にうかがいます。)
問26-(3) 問26-(2)の目的で利用する際、通常の駐輪時間は何時間ですか。近いものを選んでください。(〇は1つ)

図表8-18 自転車・ミニバイクの駐輪時間



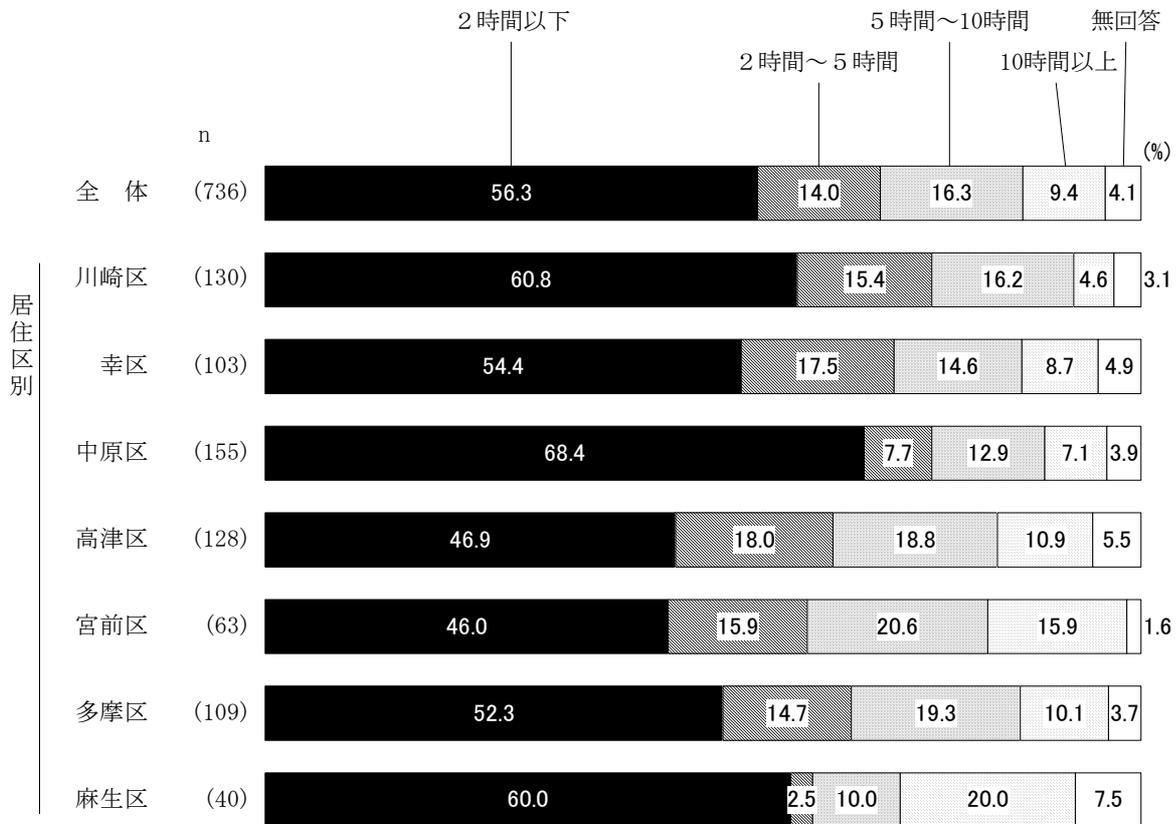
自転車・ミニバイクの駐輪時間は、「2時間以下」(56.3%)が最も多くなっている。以下「5時間～10時間」(16.3%)、「2時間～5時間」(14.0%)と続いている。(図表8-18)

図表8-19 自転車・ミニバイクの駐輪時間（性／年齢別）



性／年齢別では、「2時間以下」は、女性の70歳以上が9割で最も多くなっている。「2時間～5時間」は、男性の70歳以上が2割台半ばとなっている。「5時間～10時間」は、男性の20歳代が3割台前半、男性の30歳代と女性の40歳代が2割台となっている。「10時間以上」は、男性の20歳代と30歳代、女性の20歳代が2割台となっている。(図表8-19)

図表8-20 自転車・ミニバイクの駐輪時間（居住区別）



居住区別では、「2時間以下」は、中原区が6割台後半、川崎区と麻生区が約6割となっている。「5時間～10時間」は、宮前区と多摩区が約2割となっている。「10時間以上」は、麻生区が2割となっている。(図表8-20)

8-8 自転車・ミニバイクの目的地での駐輪場所

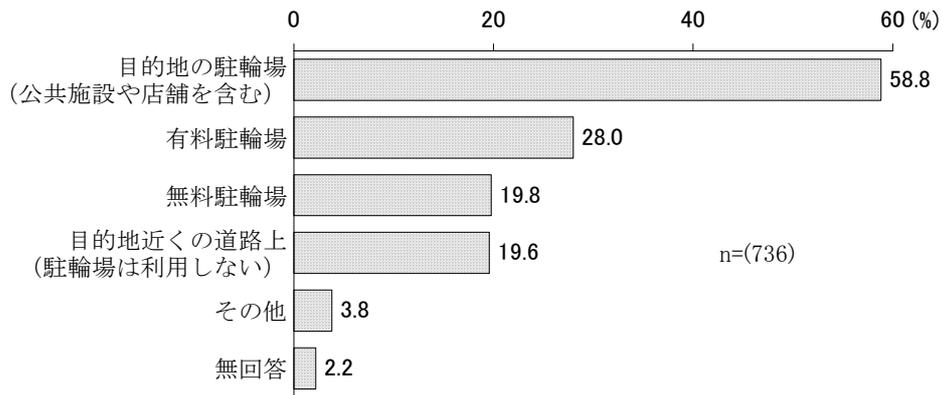
◎ 「目的地の駐輪場（公共施設や店舗を含む）」が58.8%

(問26で「1. 利用している」または「2. 時々利用している」と答えた方にかがいます。)

問26- (4) 自転車またはミニバイクで目的地に行った場合は、どこに駐輪しますか。

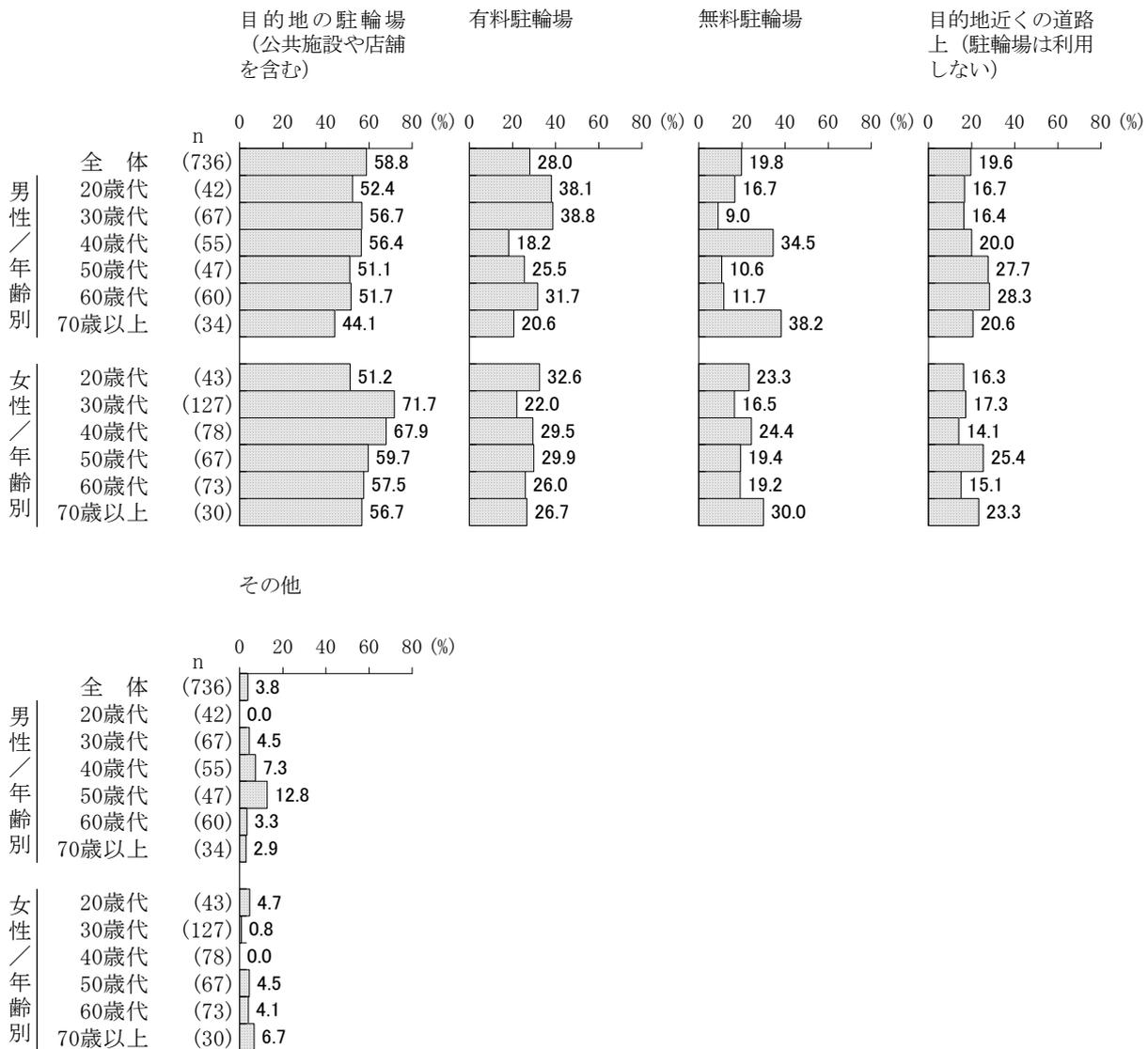
(〇は2つまで)

図表8-21 自転車・ミニバイクの目的地での駐輪場所



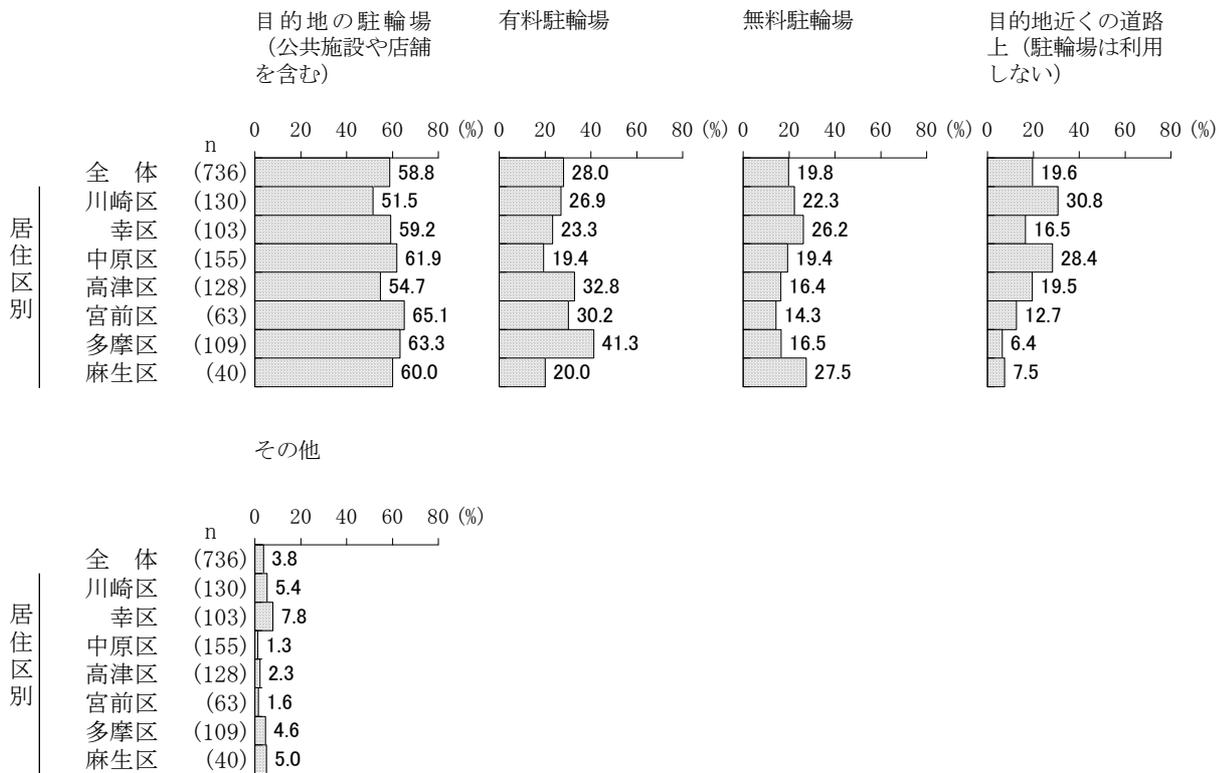
自転車・ミニバイクの目的地での駐輪場所は、「目的地の駐輪場（公共施設や店舗を含む）」(58.8%)が最も多くなっている。以下「有料駐輪場」(28.0%)、「無料駐輪場」(19.8%)、「目的地近くの道路上（駐輪場は利用しない）」(19.6%)と続いている。(図表8-21)

図表8-22 自転車・ミニバイクの目的地での駐輪場所（性／年齢別）



性／年齢別では、「目的地の駐輪場（公共施設や店舗を含む）」は、女性の30歳代が7割台前半、女性の40歳代が6割台後半で多くなっている。「有料駐輪場」は、男性の20歳代と30歳代が3割台後半で多くなっている。「無料駐輪場」は、男性の40歳代と70歳以上、女性の70歳以上が3割台で多くなっている。「目的地近くの道路上（駐輪場は利用しない）」は、男性の50歳代と60歳代、女性の50歳代が2割台半ば以上となっている。（図表8-22）

図表8-23 自転車・ミニバイクの目的地での駐輪場所（居住区別）



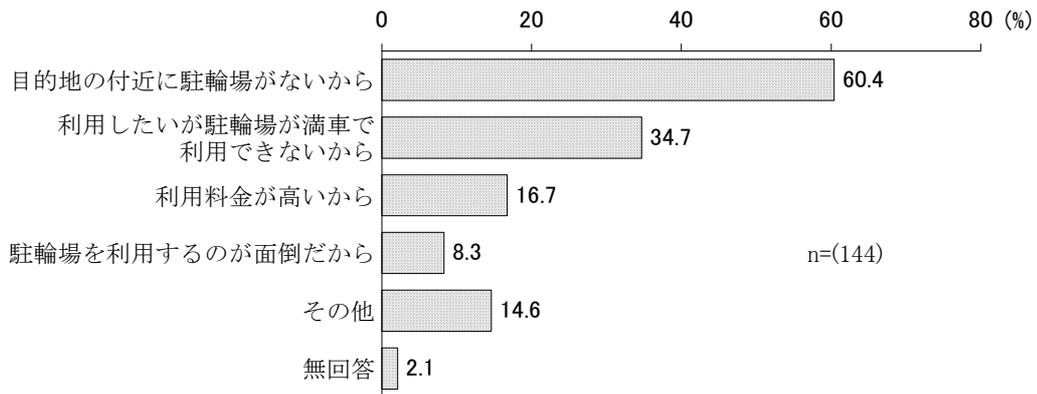
居住区別では、「目的地の駐輪場（公共施設や店舗を含む）」は、中原区、宮前区、多摩区、麻生区で6割台となっている。「有料駐輪場」は、多摩区が4割台前半で最も多く、高津区と宮前区が3割台となっている。「目的地近くの道路上（駐輪場は利用しない）」は、川崎区が約3割、中原区が2割台後半で多くなっている。（図表8-23）

8-9 駐輪場を利用しない理由

◎ 「目的地の付近に駐輪場がないから」は60.4%

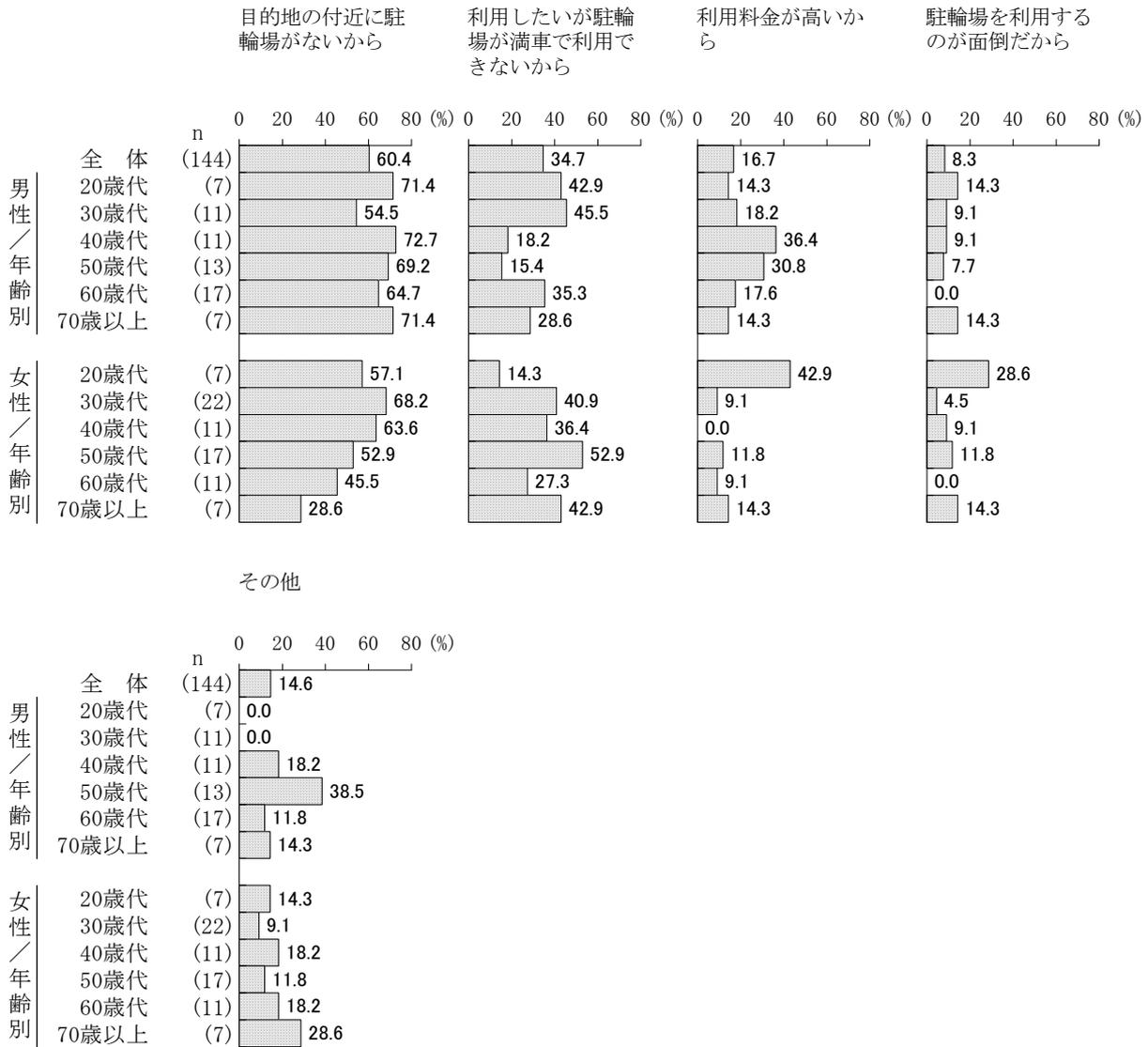
(問26- (4) で「4. 目的地近くの道路上(駐輪場は利用しない)」と答えた方にうかがいます。
問26- (5) 駐輪場を利用しない理由は何ですか。(〇は2つまで)

図表 8-24 駐輪場を利用しない理由



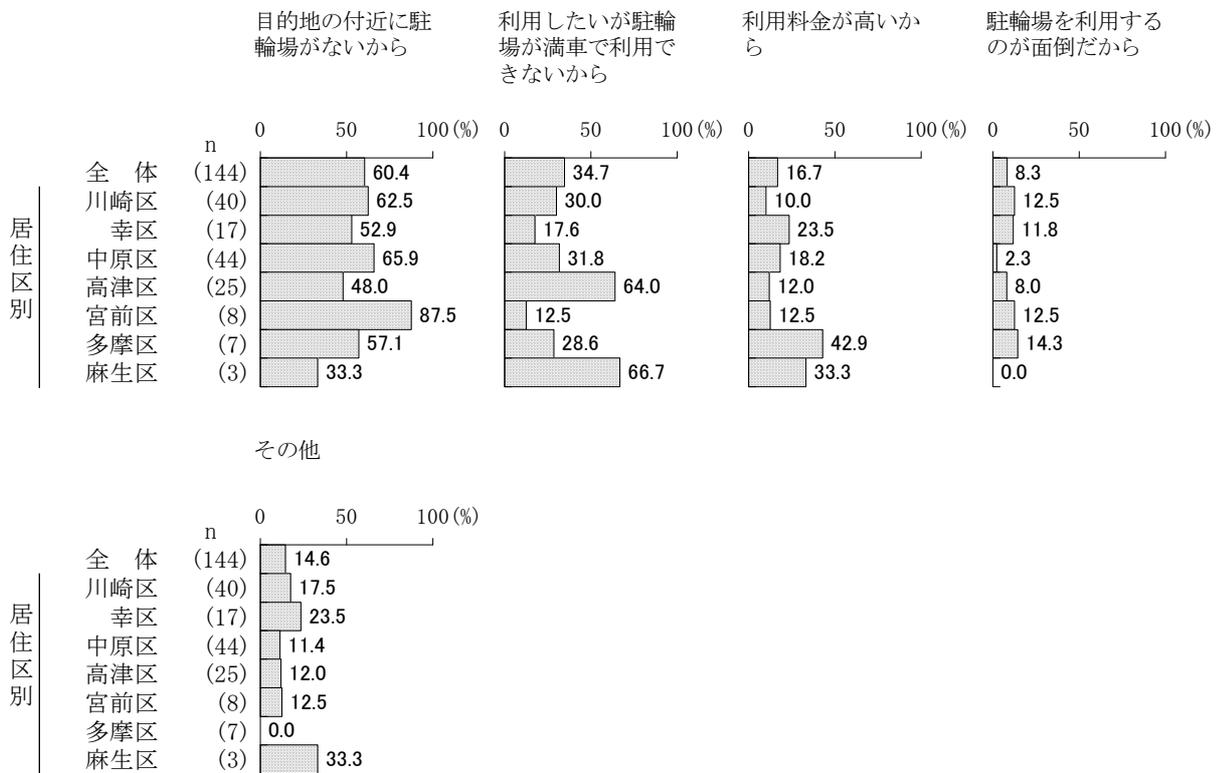
駐輪場を利用しない理由は、「目的地の付近に駐輪場がないから」(60.4%)が最も多くなっている。以下「利用したいが駐輪場が満車で利用できないから」(34.7%)、「利用料金が安いから」(16.7%)、「駐輪場を利用するのが面倒だから」(8.3%)と続いている。(図表8-24)

図表8-25 駐輪場を利用しない理由(性/年齢別)



※性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表8-25)

図表8-26 駐輪場を利用しない理由(居住区別)



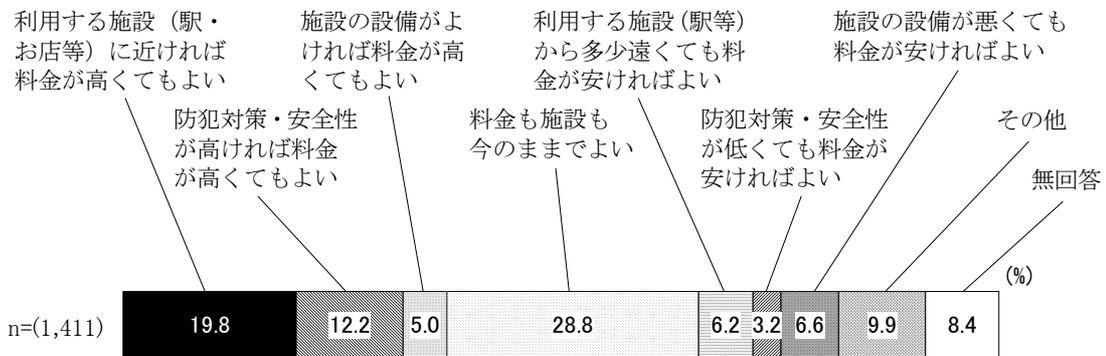
※居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表8-26)

8-10 市営有料駐輪場の料金について

◎ 「料金も施設も今のままでよい」が28.8%

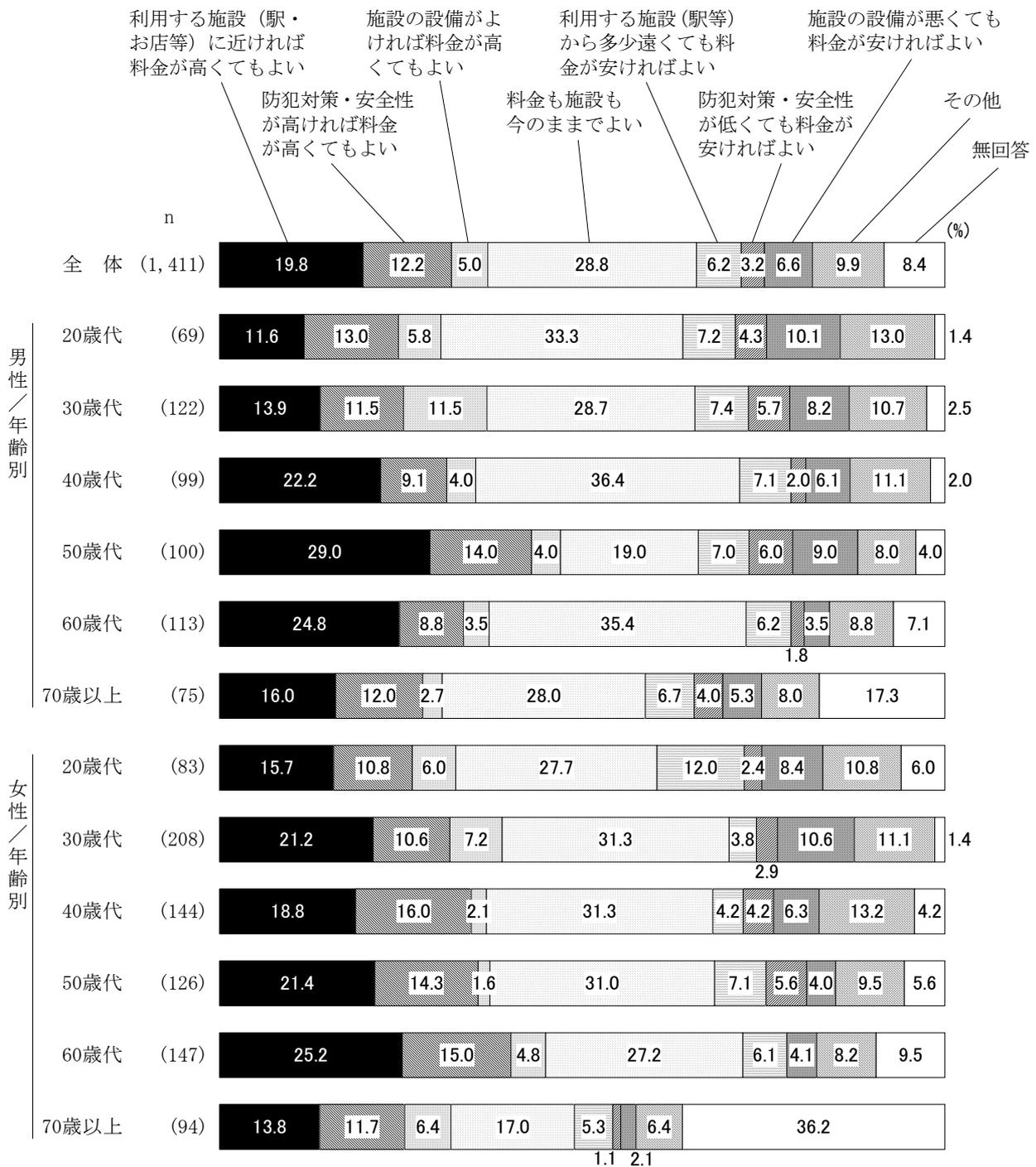
問27 市営有料駐輪場の料金についてどう思いますか。(○は1つ)

図表8-27 市営有料駐輪場の料金について



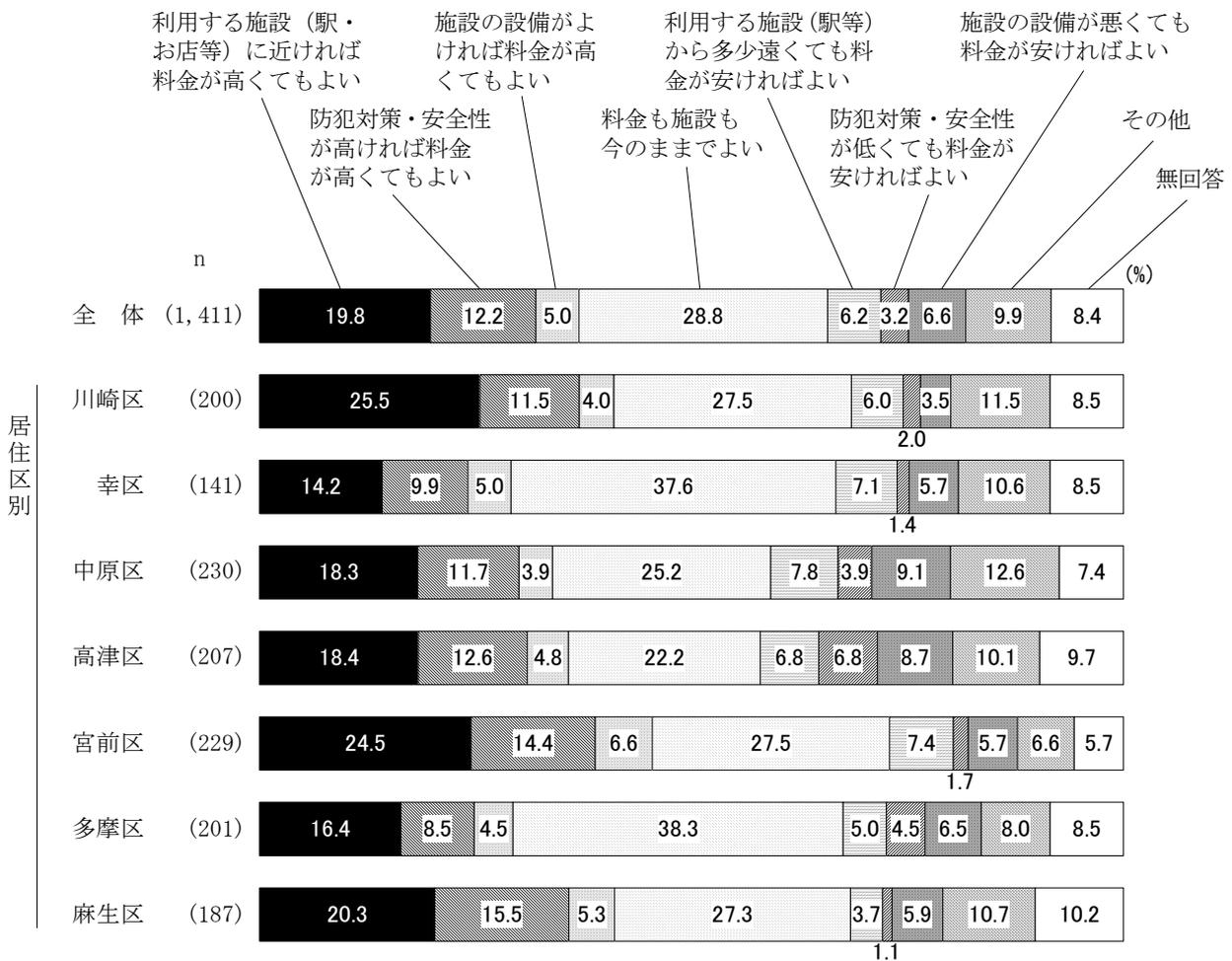
市営有料駐輪場の料金は、「料金も施設も今のままでよい」(28.8%)が最も多くなっている。以下「利用する施設(駅・お店等)に近ければ料金が高くてもよい」(19.8%)、「防犯対策・安全性が高ければ料金が高くてもよい」(12.2%)と続いている。(図表8-27)

図表8-28 市営有料駐輪場の料金について（性／年齢別）



性／年齢別では、「料金も施設も今のままでよい」は、男性の20歳代、40歳代、60歳代、女性の30歳代から50歳代が3割台で多くなっている。「利用する施設（駅・お店等）に近ければ料金が高くてもよい」は、男性の50歳代と60歳代、女性の60歳代が約2割台半ば以上で多くなっている。（図表8-28）

図表8-29 市営有料駐輪場の料金について（居住区別）



居住区別では、「料金も施設も今のままでよい」は、幸区と多摩区が3割台後半で多くなっている。「利用する施設（駅・お店等）に近ければ料金が高くてもよい」は、川崎区、宮前区、麻生区が2割台となっている。（図表8-29）